

高松版生涯活躍のまち構想

～ 瀬戸の都・高松 アクティブライフ プラン ～

平成31(2019)年3月

高松市

目次

I 「生涯活躍のまち」とは	1～2 ページ
1 国における「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）」構想	
2 国における「生涯活躍のまち」構想の基本コンセプト	
II 高松市の現状	3～7 ページ
1 人口推移と将来展望	
2 人口構成	
3 高齢化率の推移	
4 要介護認定者数の推移	
5 就業者数の推移	
III 高松市のいかすべき地域特性	8～14 ページ
1 地理的な特徴	
2 社会的な特徴	
3 地域資源	
4 社会参加・交流の場	
5 交通基盤	
6 医療・介護・生活支援	
7 地域コミュニティの活動	
IV 生涯活躍のまちに対する意識	15～23 ページ
1 高松市民（現在及び将来シニア）の意識	
2 首都圏在住者（現在及び将来シニア）の意識	
3 地域コミュニティ協議会の意識	
V 高松版生涯活躍のまち構想	24～30 ページ
1 構想の位置付け	
2 対象者及び対象区域	
3 目指す姿	
4 基本方針	
5 取組の評価	
6 庁内推進体制	
■ 付属資料	31～59 ページ

I 「生涯活躍のまち」とは

1 国における「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）」構想

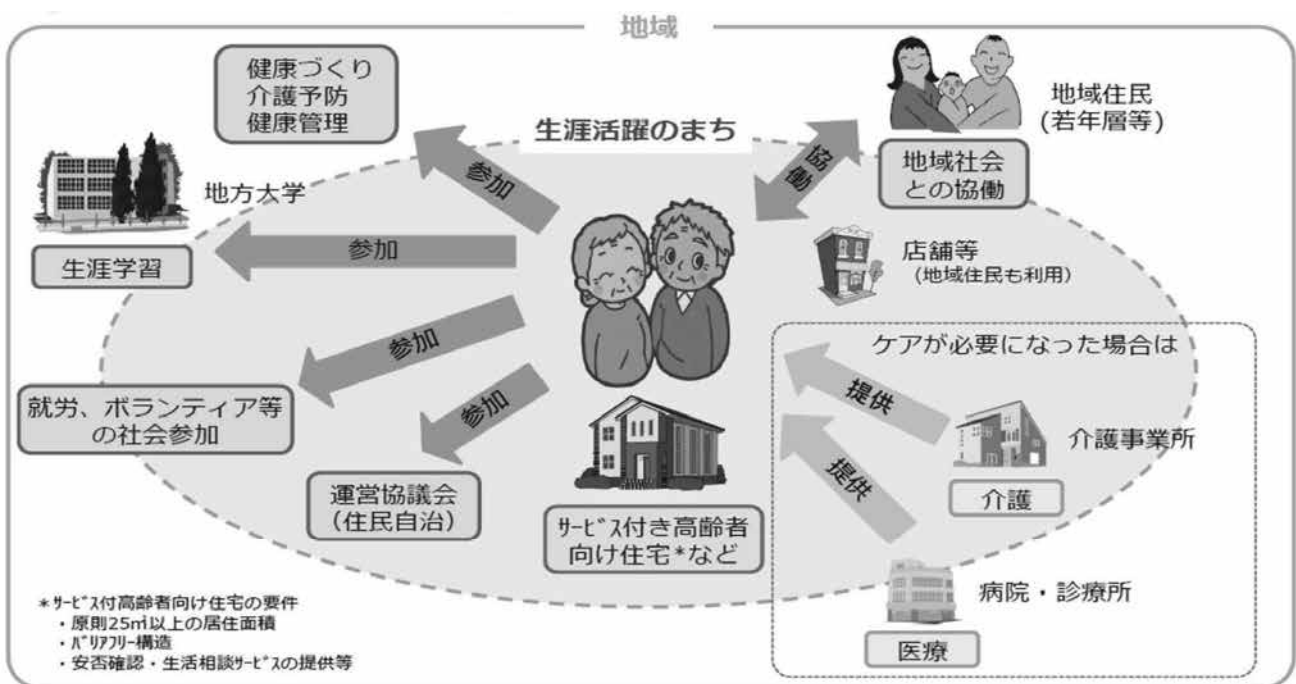
「生涯活躍のまち」構想は、「中高年齢者が希望に応じて地方やまちなかに移り住み、多世代の地域住民と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる地域づくり」を目指すものです。

「生涯活躍のまち」構想は、単に高齢者等のための福祉施設や住まいを整備するという発想ではなく、中高年齢者をはじめとする地域住民を主人公として、自助・互助・共助・公助のもと、誰もがコミュニティの一員として役割や生きがいを持ち、それぞれの経験や能力をいかして健康で、長く活躍できるような地域づくりに、官民が連携して取り組むものとされています。

また、安心して暮らすことができる住まいのほか、就労や生涯学習などの活躍の場、医療・介護が必要になった時でも継続的なケアを受けることができる体制、さらに、多世代の地域住民との交流といった要素が求められています。

「生涯活躍のまち」構想における生活のイメージ

- ①健康でアクティブな生活の実現と継続的ケアの提供、②自立した生活ができる居住環境の提供、③入居者の参画の下、透明性が高く安定した事業運営によるコミュニティの形成を一体的に実現。



※事業の透明性・安定性の確保の方策：入居者の参画、情報公開、事業の継続性確保等

出典) 「生涯活躍のまち」構想に関する手引き (第3版)

2 国における「生涯活躍のまち」構想の基本コンセプト

こうした基本理念を踏まえ、「生涯活躍のまち」構想では、次の7つの点を基本コンセプトとしています。

構想が目指す基本方向
①東京圏をはじめ地域の中高齢者の希望に応じた地方や「まちなか」などへの移住支援 <ul style="list-style-type: none">・ 移住希望者に対してきめ細かな支援を行う。東京圏等から地方へといった広域的な移動を伴う移住のみならず、「まちなか」への転居など地域内での移動を伴う取組も想定
②健康でアクティブな生活の実現 <ul style="list-style-type: none">・ 健康な段階からの入居を基本とし、目標志向型の「生涯活躍プラン」に基づき、健康づくりや就業、社会的活動、生涯学習に主体的に参加することを目指す
③地域社会（多世代）との協働促進 <ul style="list-style-type: none">・ 入居者が地域社会に積極的に受け入れられ、子どもや若者など多世代との協働や地域貢献できる環境を実現する。ソフト面全般にわたる「運営推進機能」の整備や、地域包括ケアシステム関連施策との連携も重要
④「継続的なケア」の確保 <ul style="list-style-type: none">・ 医療・介護が必要となった時に、人生の最終段階まで尊厳ある生活が送れる「継続的なケア」の体制を確保。重度の要介護状態になっても地域に居住しつつ介護サービスを受けることを基本とする
⑤IT活用などによる効率的なサービス提供 <ul style="list-style-type: none">・ 医療・介護人材の不足に対応し、ITや多様な人材の活用、中高年齢者などの積極的な参加により効率的なサービス提供を行う
⑥入居者の参画・情報公開等による透明性の高い事業運営 <ul style="list-style-type: none">・ 入居者自身がコミュニティの運営に参画するという視点を重視
⑦構想の実現に向けた多様な支援 <ul style="list-style-type: none">・ 情報支援、人的支援、政策支援により構想の具体化を後押し

出典) 「生涯活躍のまち」構想に関する手引き (第3版)

II 高松市の現状

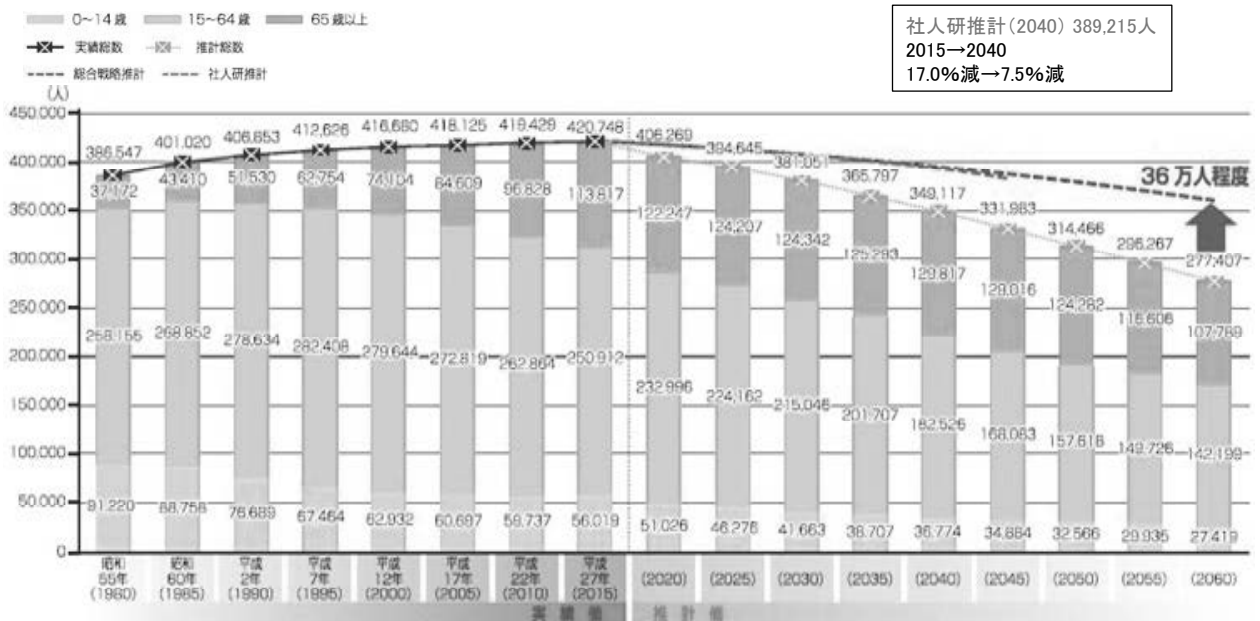
1 人口推移と将来展望

平成 27 年の国勢調査の確定値の公表を受けた、国立社会保障・人口問題研究所による推計では、我が国の将来人口は、2029 年には 1 億 2 千万人を下回り、2053 年には 1 億人を下回るとされています。

現在、本市の人口は、42 万人程度を維持し、2045 年頃までは、2060 年に 36 万人程度とする本市の目標人口の推移と近いものとなりましたが、今後も、減少傾向が見込まれ、2060 年には約 28 万人まで減少するとの推計結果が示されており。

また、年齢区分別人口でみると、生産年齢人口（15 歳～64 歳）は、平成 7 年をピークに減少に転じ、年少人口（0 歳～14 歳）は、昭和 55 年以降、減少傾向にあります。その一方で、高齢者人口（65 歳以上）は増加傾向にあり、平成 12 年以降は、高齢者人口が年少人口を上回る状況になっており、5 年間当たり 1 万人を超える増加となっており、依然として、本市における人口減少・少子高齢化社会の進行は深刻な状況にあります。

このため、本市では、平成 27 年 10 月に策定した「たかまつ人口ビジョン」で、2060 年の目標人口を 36 万人程度と定め、人口減少対策に資する取組を行っています。



社人研推計(2040) 389,215人
2015→2040
17.0%減→7.5%減

高松市人口の現状と将来予測

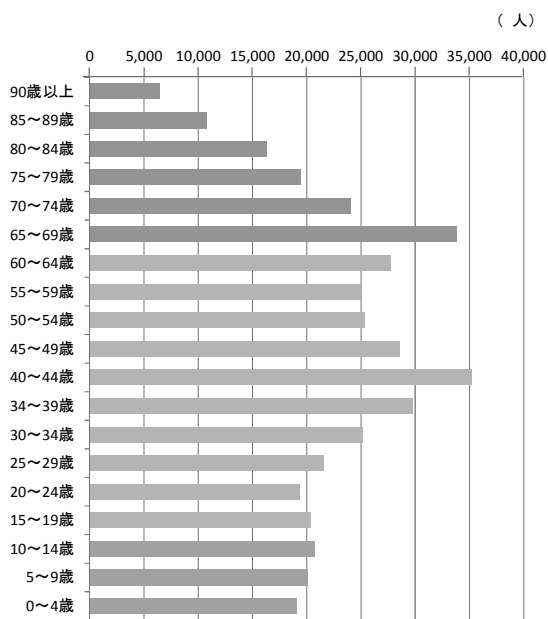
出典) 第 6 次高松市総合計画概要版

2 人口構成

本市の年齢階級別の人口構成（平成30年）は、40歳～49歳と65歳～69歳が、他の年齢階級と比べて突出する構造となっています。

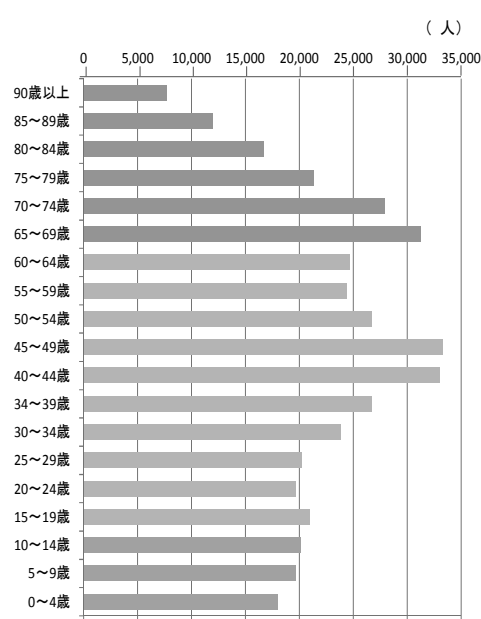
国立社会保障・人口問題研究所が行った推計では、2060年をみると、高齢者人口と年少人口に大きな差がありますが、本市の目標人口による推計では、各年齢階級の人口が均等に近づいており、目標人口を実現することで、人口構成にも大きな改善が見込まれ、本市における持続可能な社会の実現にも寄与することが期待できます。

平成27（2015）年10月1日時点の人口構成



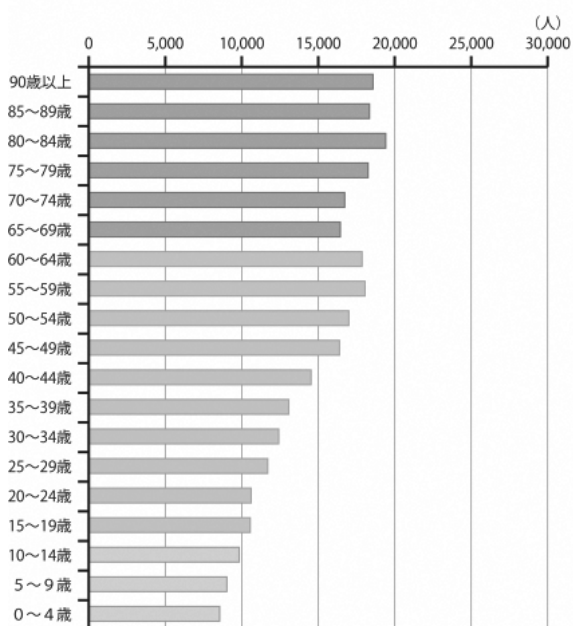
※国勢調査

平成30（2018）年10月1日現在の人口構成

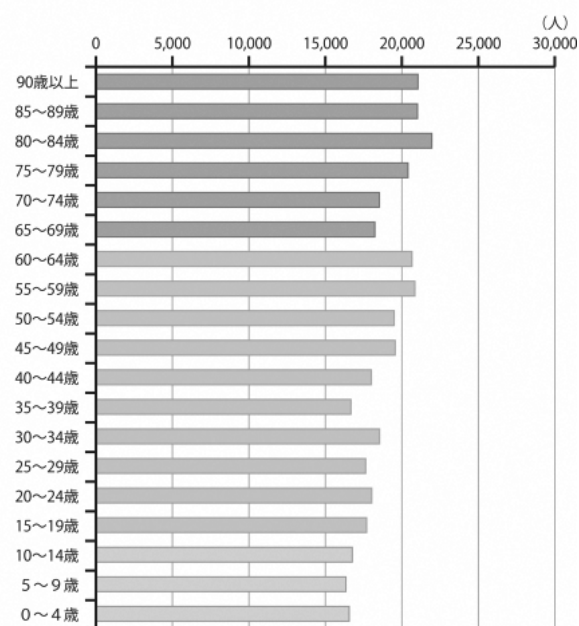


※高松市統計年報

国立社会保障・人口問題研究所推計による
平成72（2060）年の人口構成



本市目標人口による
平成72（2060）年の人口構成

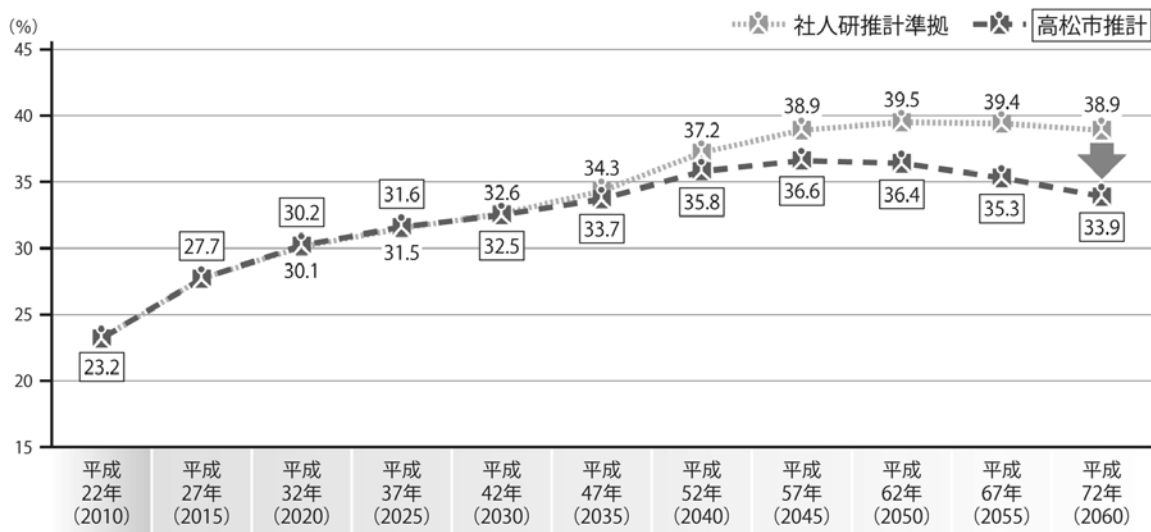


出典) たかまつ人口ビジョン

3 高齢化率の推移

本市の高齢化率は、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2060年時点で38.9%程度まで上昇することが見込まれています。本市の人口ビジョンでは、人口減少対策となる効果的な施策を着実に実施し、目標人口を実現すれば、2060年時点で33.9%程度まで改善すると推計しています。

本市の高齢化率の推移と長期的な見通し

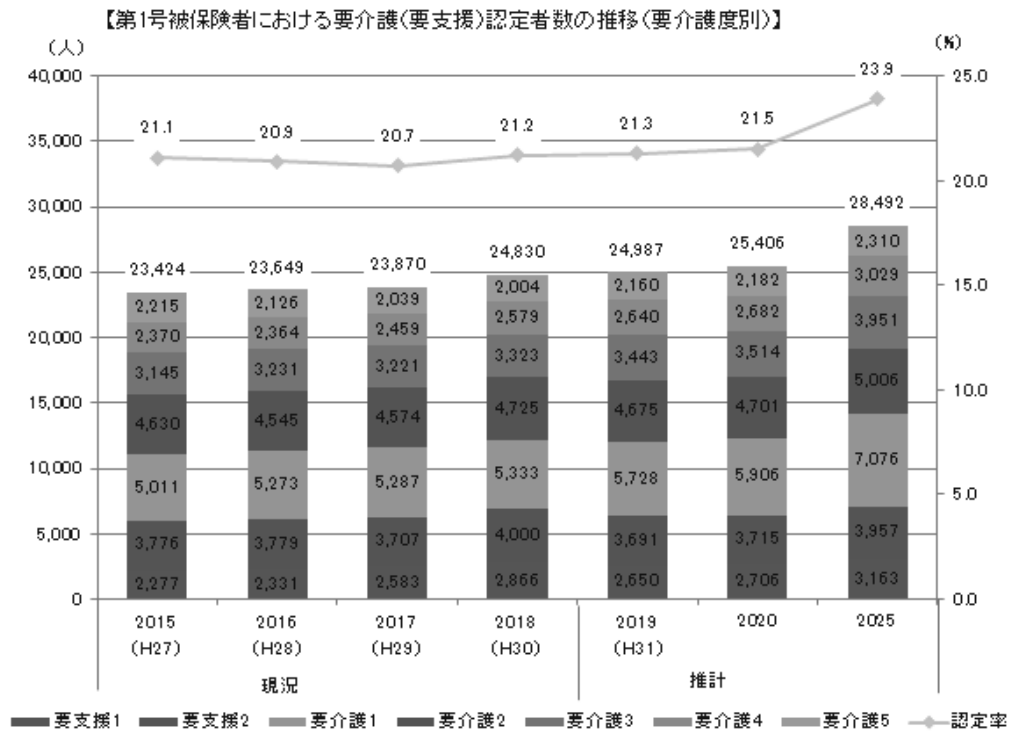


出典) たかまつ人口ビジョン

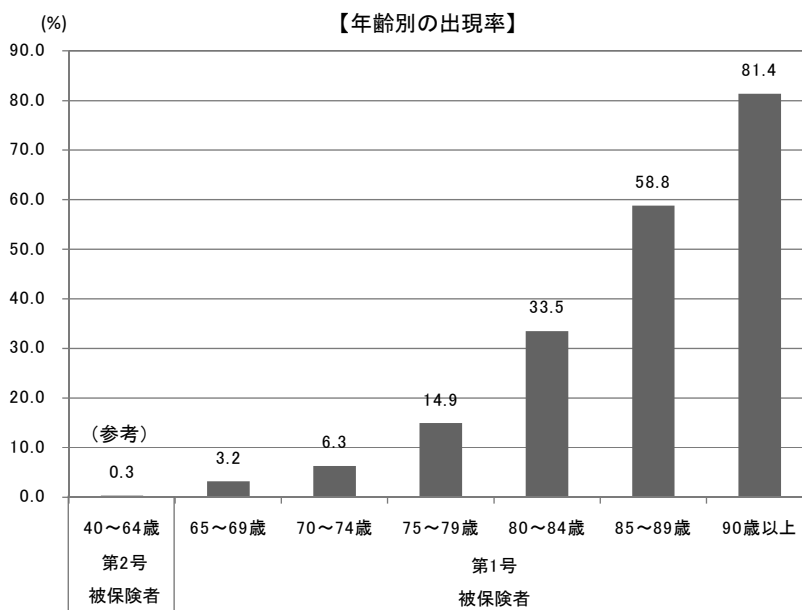
4 要介護認定者数の推移

平成30年9月末時点の第1号被保険者における要介護（要支援）認定者数は24,830人で、高齢者人口に対する認定率は21.2%となっています。第7期高松市高齢者保健福祉計画の推計では、2020年には第1号被保険者における要介護（要支援）認定者が25,406人（認定率21.5%）、2025年には28,492人（認定率23.9%）に増加すると見込まれており、おおむね4人に1人が要介護者になると想定されます。

また、年齢別人口に対する認定者の割合（出現率）をみると、65～69歳が3.2%であるのに対し、85～89歳では58.8%と、おおむね2人に1人が要介護（要支援）認定者となっています。



※2015～2018については、介護保険事業状況報告月報（各年9月末）
2019以降については、第7期高松市高齢者保健福祉計画から引用

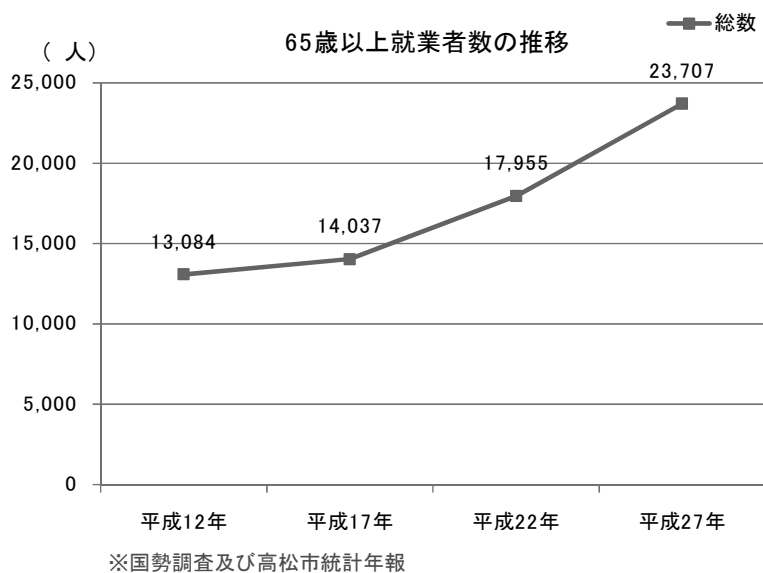
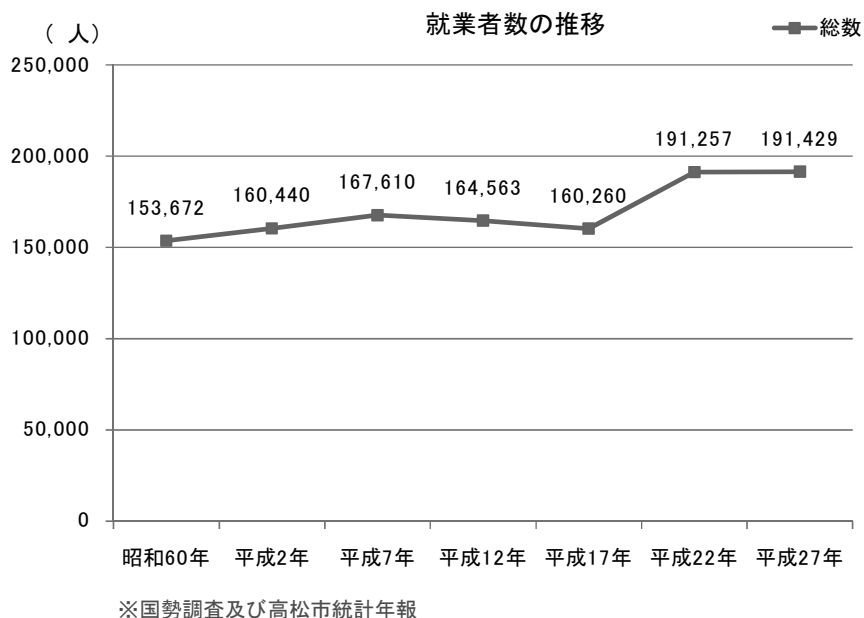


※介護保険事業状況報告月報（2018年9月末）

5 就業者数の推移

本市の就業者数は、周辺町との合併により平成22年には約19万人に達し、以降は横ばい傾向にあります。

一方、65歳以上の就業者数は、平成22年から27年までの5年間で約6千人増えるなど、増加傾向にあり、労働力人口の高齢化が顕著にみとれます。



Ⅲ 高松市のいかすべき地域特性

1 地理的な特徴

本市は、四国の北東部、香川県の中央に位置し、北は多島美を誇る波静かな瀬戸内海を臨み、南は讃岐山脈を頂く、豊かな自然環境を保有する風光明媚な都市です。また、古くから四国の玄関口として繁栄し、便利な都市機能とのどかな田園風景が調和したコンパクトなまちです。

本市の総面積は 375.53 km²で、讃岐平野の一部である高松平野に位置し、都心部が臨海部に接する地理的特徴があります。また、年間を通じて降水量が少なく、寒暖の差が小さい温暖な気候に恵まれています。



高松港



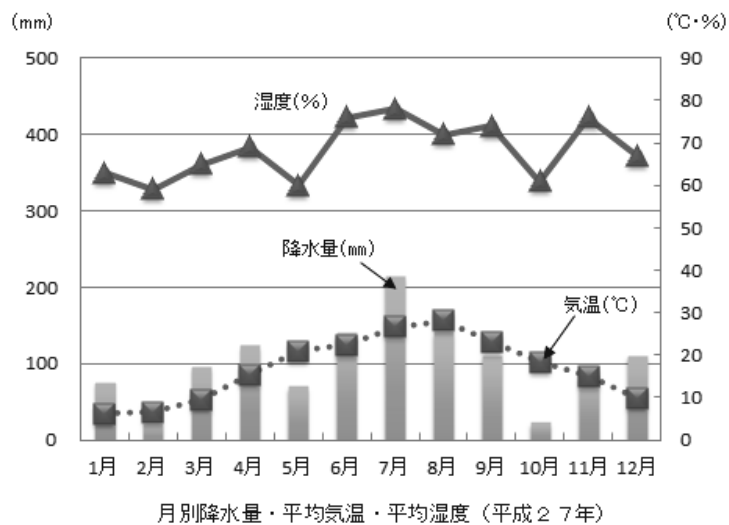
瀬戸内海と島々



郊外



中心市街地



※高松市統計年報

2 社会的な特徴

本市は、地方支分部局や大手民間企業の支店等が集積するなど、香川県の県都として、また、広域都市圏の中心市、さらには四国の中枢管理都市としての優れた都市機能が備わっています。

平成28年の経済センサスでは、就業者数は約20万3千人で、そのうち、卸売業・小売業が24.7%と最も多くなっています。また、卸売業と小売業を合わせた「年間商品販売額」は約2兆3,973億円で、四国第1位であり、四国地方における経済の拠点都市となっています。

中心市街地には、丸亀町商店街など8つの商店街で高松中央商店街が形成され、日本一の長さを誇る県内随一の商店街として小売店が集積しており、買物客でにぎわいをみせています。



合同庁舎



中央通りオフィスビル



高松中央商店街

3 地域資源

本市は、国の史跡及び天然記念物に指定されている屋島をはじめ、国・県・市指定の文化財など、歴史的・文化的資源が多く存在しています。また、日本三大水城の一つに数えられ、庭園美が堪能できる玉藻公園をはじめ、国の特別名勝に指定されている栗林公園や世界の宝石と称される瀬戸内海の多島美、それを一望できるサンポート高松など、数多くの景勝地があります。

代表的な地場産業である香川漆器は、長い歴史と伝統に支えられた産業で、国の伝統的工芸品の指定を受けるなど全国に誇れる品質を有しているほか、全国有数の産地である黒松の盆栽や庵治石、全国ブランドの讃岐うどんなど、特産品も豊富にあります。

また、瀬戸内国際芸術祭をはじめ、高松国際ピアノコンクールやサンポート高松トライアスロン（瀬戸内国際体育祭）などの文化芸術やスポーツにおける国際的なイベントが開催されています。さらに、街クラシック in 高松やたかまつ大道芸フェスタなど、まちなかで身近に楽しむことができる多彩なイベントも数多く行われています。



屋島と瀬戸内海



玉藻公園（高松城跡）



香川漆器



盆栽（黒松）



瀬戸内国際芸術祭



たかまつ大道芸フェスタ



サンポート高松トライアスロン

4 社会参加・交流の場

本市には、各地区のコミュニティセンターをはじめ、市民活動センターや生涯学習センターなど、多様な地域・交流活動や生涯学習などの機会が得られる場が整備されています。また、子育て支援施設やプラネタリウムなどを併設した、たかまつミライエ(※1)や図書館などの3施設からなるサンクリスタル高松(※2)、美術館などの市の公共施設のほか、県立図書館や国公立2大学、私立2大学など、文化芸術・教育活動の場も豊富です。



コミュニティセンター



市民活動センター
(IKODE瓦町)



生涯学習センター
(まなびCAN)



たかまつミライエ



サンクリスタル高松



高松市美術館

(※1) こども未来館・夢みらい図書館・平和記念館・男女共同参画センターなどを配置

(※2) 高松市図書館・高松市歴史資料館・菊池寛記念館を配置

5 交通基盤

本市には、高規格道路として高松自動車道が通っており、4つのインターチェンジが配置されています。主要幹線道路は、東西方向に国道11号が、また、南北方向には国道32号と国道193号が整備されており、愛媛・高知・徳島方面との重要な連絡機能を有しています。

また、本市には、高松空港、高松港及びJ R高松駅という四国の玄関口としての機能を担う重要交通施設が配置されており、それらを主要結節点とした公共交通網が整備されています。

高松空港は、東京から約1時間でアクセスしているほか、国際線もソウル・上海・台北・香港の4路線が運航されています。

公共交通としては、鉄道とバスがあり、J Rが高松駅を起点に東西2方向路線を運行し、高松琴平電気鉄道（ことでん）が瓦町駅を中心に4方向に放射状に路線を巡らせています。バス路線についても、J R高松駅や瓦町駅を中心として、中心市街地のほか市内一円に路線バス等が運行されており、本市の基幹交通としての役割を担うとともに中心部と郊外を結ぶ基幹的な公共交通軸を形成しています。バス利用が困難な地域では、地域が主体となってコミュニティバスを運行し、高齢者などの移手段の確保に努めています。

また、高速バスについても、東京をはじめ、大阪や京都、神戸などへの直行便が数多く運行されています。

一方、平坦な地形が多いという特性から、自転車が利用しやすい恵まれた環境にあります。



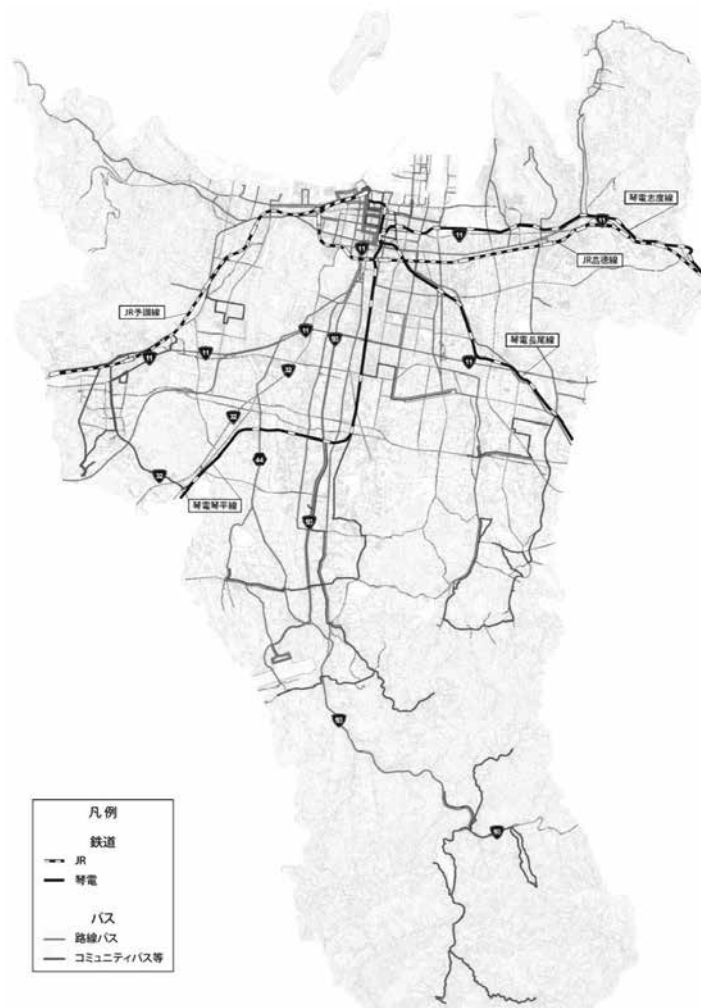
JR 高松駅・バスターミナル



ことでん



コミュニティバス



公共交通網

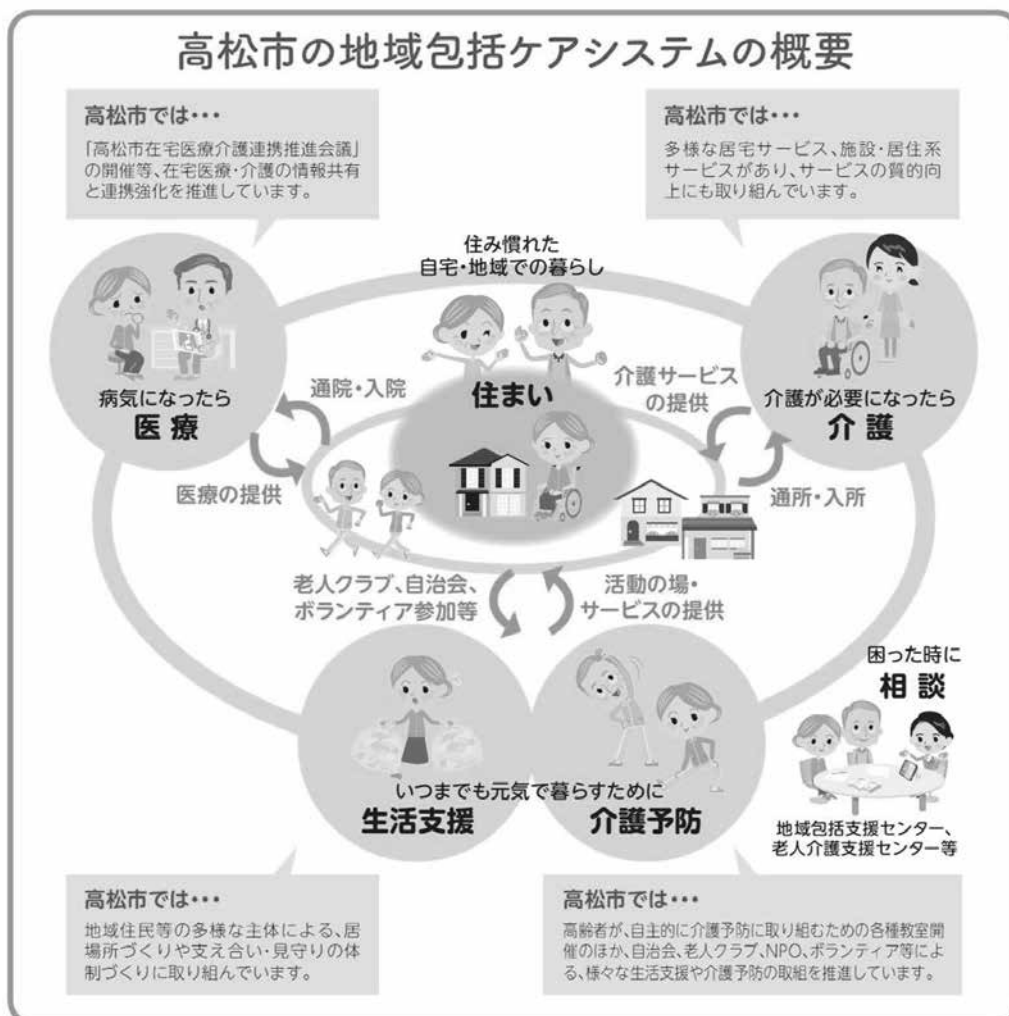
6 医療・介護・生活支援

本市には、市立みんなの病院や香川県立中央病院などの総合病院をはじめとした病院が 35 施設（平成 30 年 10 月時点における 20 床以上の病院）あり、夜間急病診療所や救命救急センターも設置されるなど、救急医療体制が整っているほか、高齢者介護施設が 53 施設（平成 30 年 10 月時点）と数多く整備されており、ケア体制も整っています。

また、要支援認定者等への介護予防支援、高齢者の相談などを担う拠点として、市内に地域包括支援センターとそのサブセンター 6 か所（平成 31 年 4 月現在）を設置するとともに、市内 28 か所の老人介護支援センターに高齢者の相談窓口を設けています。

また、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう医療・介護・介護予防・生活支援・住まいに関するサービスが一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に向けて、医療と介護の連携の推進に取り組むほか、支え合いの地域づくりを行っています。

さらに、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現に向けて取り組んでいます。



出典) 第 7 期高松市高齢者保健福祉計画

7 地域コミュニティの活動

人口減少、少子・超高齢社会の到来や生活スタイルの多様化により、地域での連帯感が薄れていることから、地域社会においては、新しい結びつきが求められています。

そこで、本市では、市内全域の44地区に、自治会をはじめとした地域の各種団体や、そこに住む全ての人を構成員とする「地域コミュニティ協議会」を構築しています。

そして、本市の自治の基本理念や自治運営の基本原則を定めた「高松市自治基本条例」において、地域の個性をいかして、自主的なまちづくりに取り組む組織として「地域コミュニティ協議会」を明確に位置付け、本市は、その活動を尊重し、適切な支援を行うこととしています。

そして、地域コミュニティ協議会では、まちづくりの取組の指針となるコミュニティプラン（まちづくり計画）を作成し、それに基づき、文化祭や夏祭りをはじめとする地域住民の交流に関するものから、交通安全の啓発や子どもの見守り、防災訓練などの安全・安心なまちづくりに関するものまで、様々な活動をしています。

本市では、この地域コミュニティ協議会を中心に、地域の特性をいかし、多様な主体が参画・協働するまちづくりを目指しています。



地域コミュニティの活動

IV 生涯活躍のまちに対する意識

1 高松市民（現在及び将来シニア）の意識

本構想の策定に当たり、本市内に居住する40歳から69歳までの市民を対象に、生涯活躍のまちに対する意識調査を行いました。

■アンケート調査の概要（P31～P44 参照）

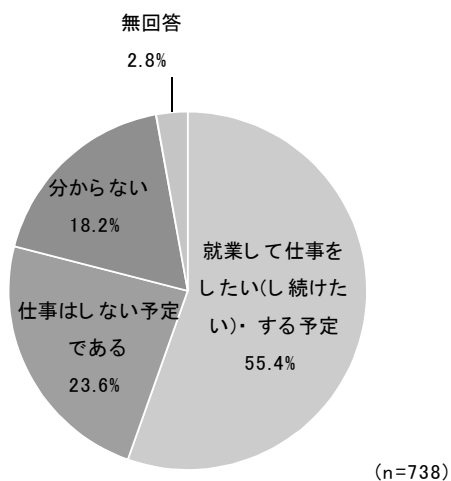
- 対象者数：2,100人 ○調査方法：郵送による配布・回収
- 実施期間：平成30年（2018）9月上旬～9月中旬 ○回収数：738人（35.1%）

「就業・仕事について」

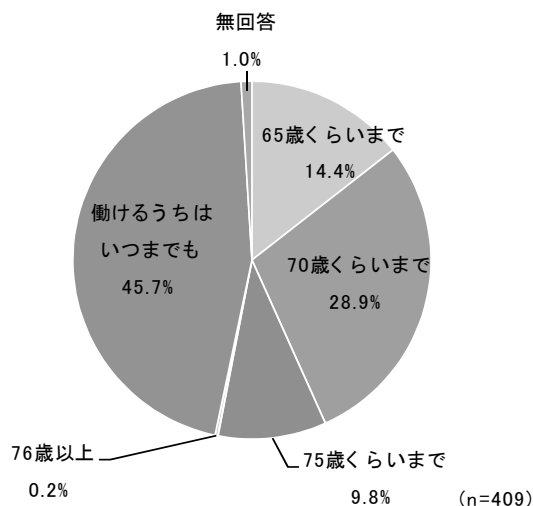
50歳代から60歳代までの、いわゆるシニア世代になっても仕事をしたいと考える人は、5割以上を占めており、健康でハリのある生活を送ることや、生きがいを感じる事が理由として多くあげられています。

また、仕事の内容としては、企業などに雇用されて仕事をしたい、あるいは、地域に役立つ活動を通じて仕事をしたいといった意見が多くみられています。

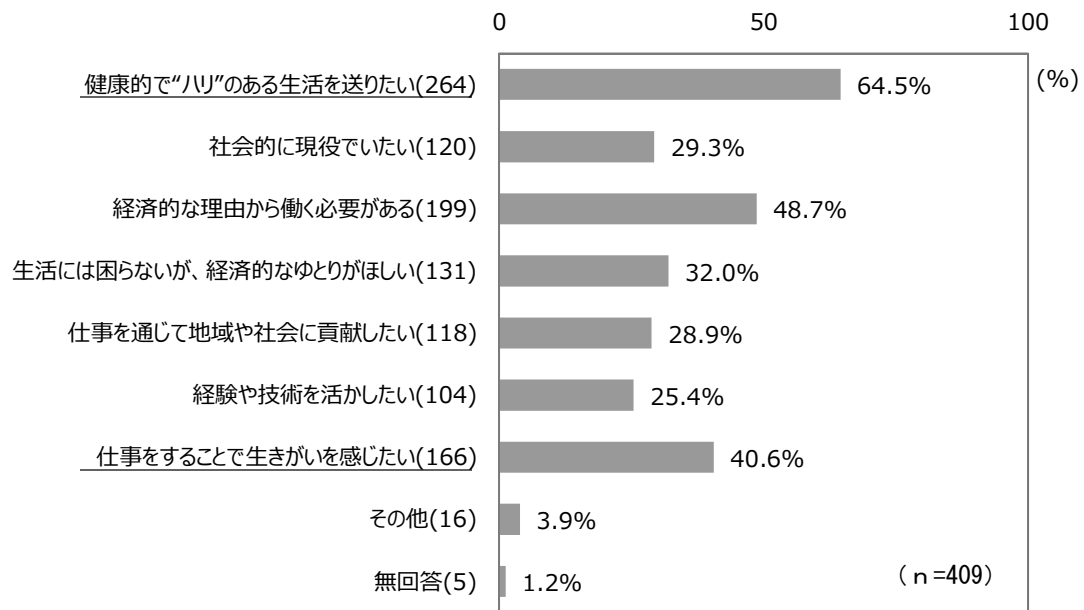
問 「シニア世代」になって仕事をしたいと思えますか。



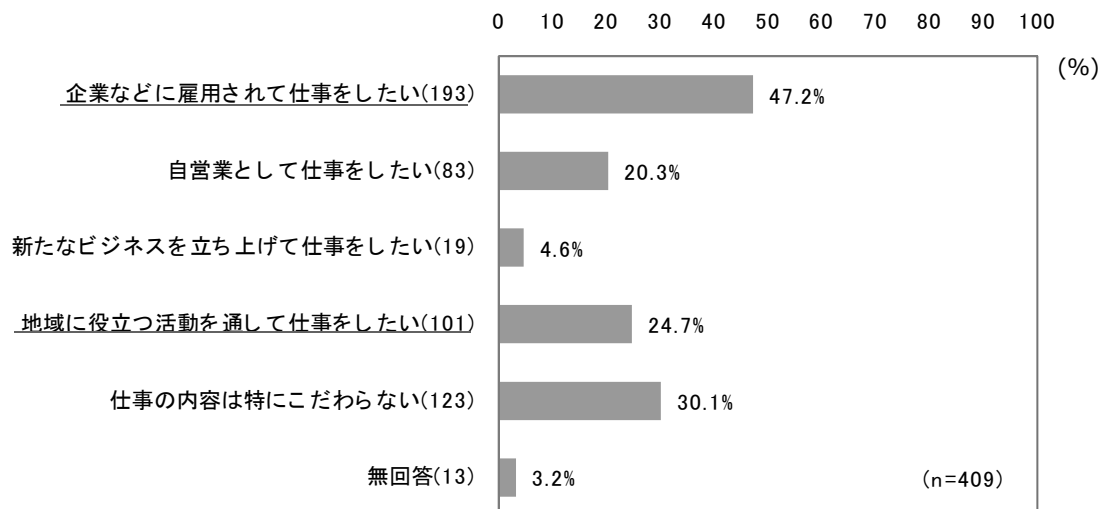
問 何歳ごろまで仕事をしたいですか。



問 仕事をしたい理由は何ですか。（複数回答）



問 したい仕事の内容はどのようなものですか。（複数回答）



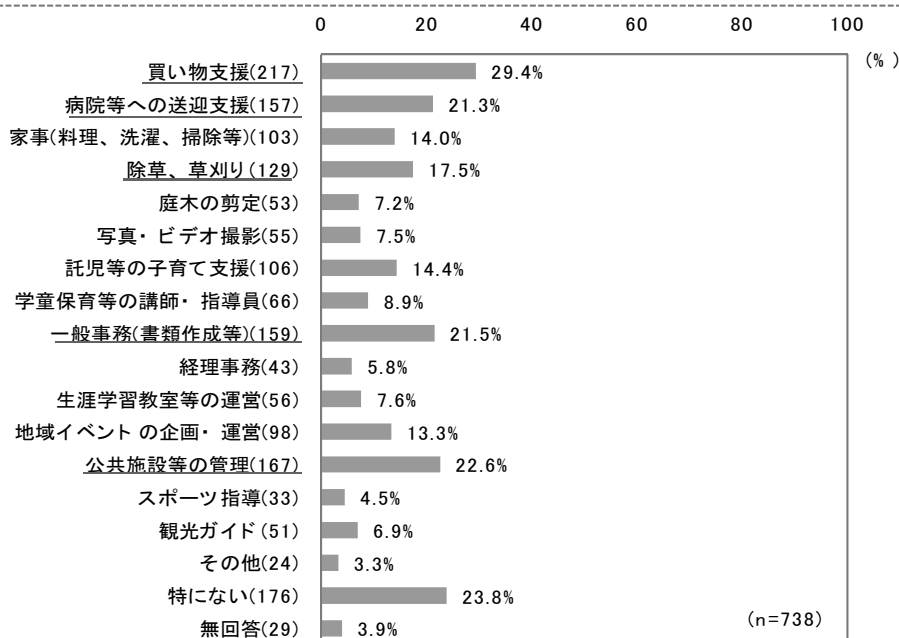
「地域活動等への参画について」

シニア世代になって地域に役立つ仕事や活動に参画したいと考える人のうち、多くの人
が買い物支援や病院等への送迎支援をあげています。また、公共施設等の管理や除草・草
刈りなども多い傾向にあります。

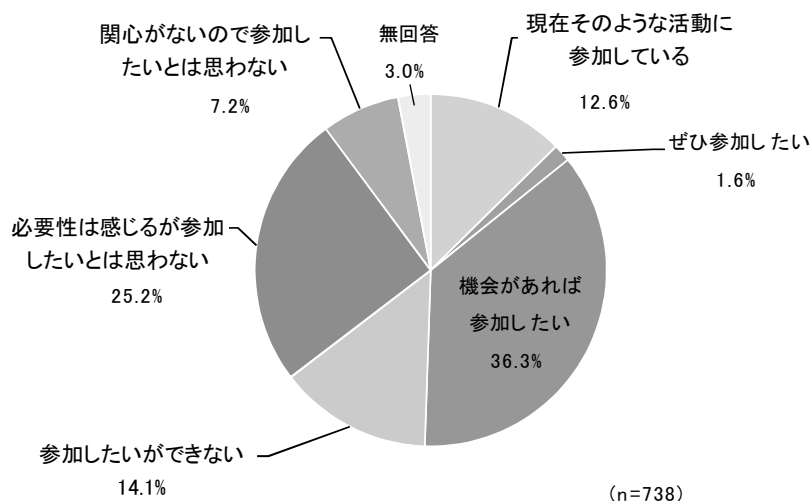
地域活動やボランティア活動に参加したいと考えている人は5割を占めており、行いた
い活動内容として、自然・環境保護に関する活動（環境美化・リサイクル活動など）や、
町内会・自治会活動が多くあげられています。

また、交通安全や防犯、高齢者や障がい者などに対する支援、自主防災活動、災害援助
活動など、地域の安全・安心に関する活動も多くあげられています。

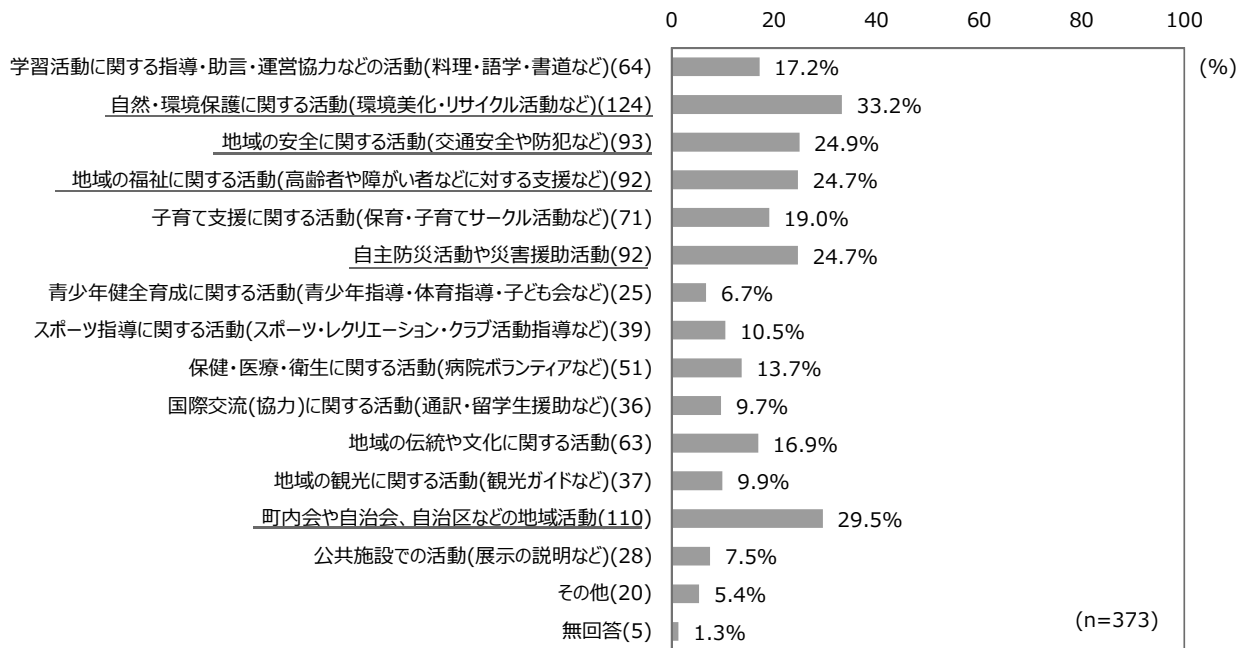
問 近年、地域に役立つ仕事や活動が求められるようになっていきます。
次のような仕事や活動について、あなたが参画できるもの、参画したいものはどれで
すか。（複数回答）



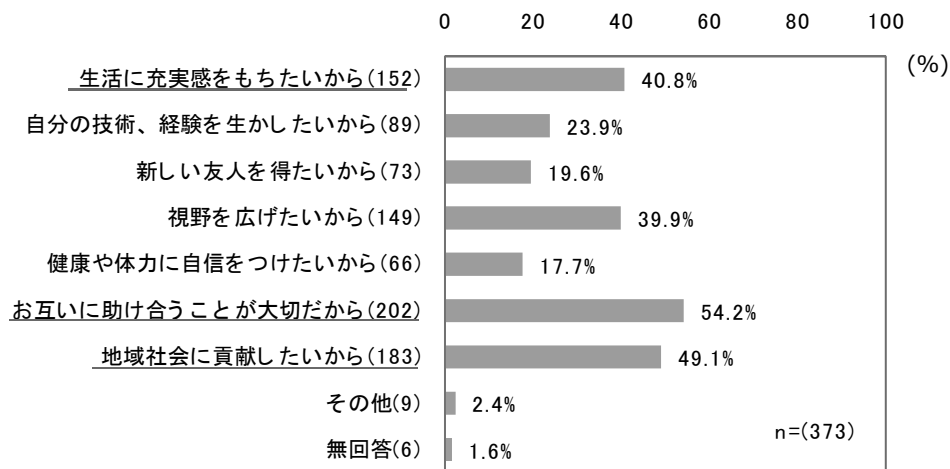
問 地域活動やボランティア活動などの社会参加・貢献活動について、あなたの考えに近い
ものはどれですか。



問 あなたが、現在も含め、今後行いたい地域活動・ボランティア活動は何ですか。（複数回答）



問 あなたが、地域活動・ボランティア活動に参加したいと思う理由は何ですか。（複数回答）



2 首都圏在住者（現在及び将来シニア）の意識

本構想の策定に当たり、首都圏に居住する40歳から69歳までの方を対象に、地方への移住などに関する調査を行いました。

■ アンケート調査の概要（P45～P49 参照）

- 対象地域：東京都（23区、23区以外）
- 対象者数：2,100人
- 調査方法：インターネットによる配信・回収
- 実施期間：平成30年（2018）9月上旬
- 回収数：1,246人(59.3%)

「地方への移住について」

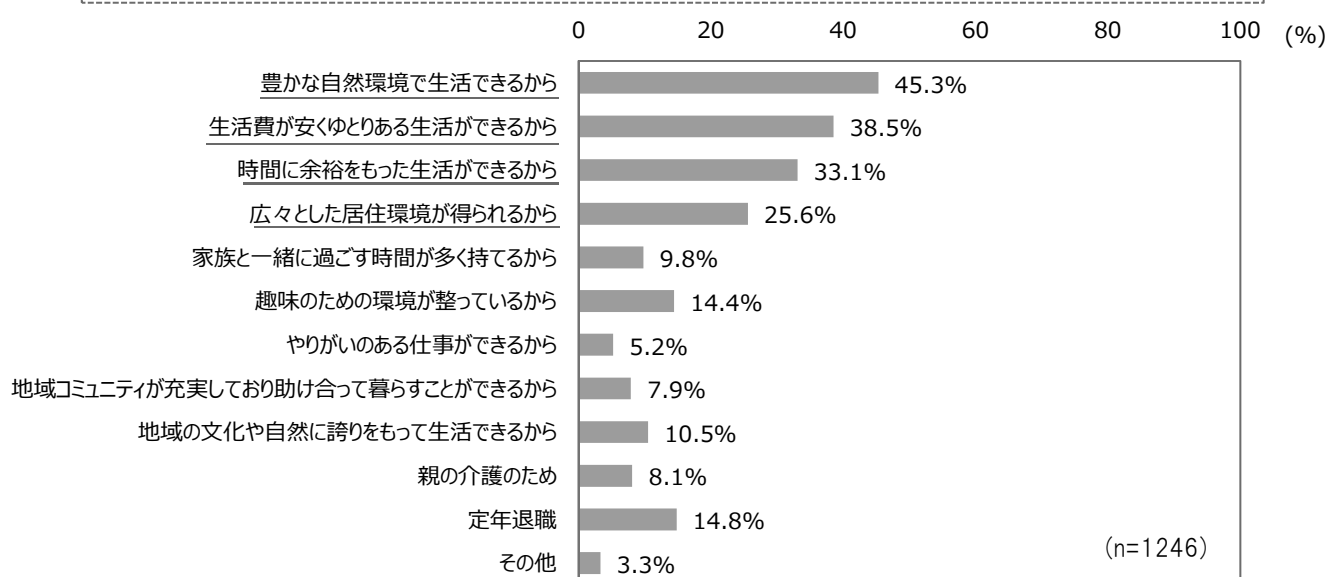
地方への移住を検討するきっかけとしては、豊かな自然環境で生活できることや、生活費が安くゆとりのある生活ができること、時間に余裕をもった生活ができることなどが多くあげられています。

また、特に重要と考える移住の条件としては、交通の利便性、医療・福祉サービスの充実、住まいの環境、買い物環境、病院への近さといった日常生活における利便性に関する意見が多くあげられているとともに、多世代の地域住民との交流のしやすさについても意見があげられています。

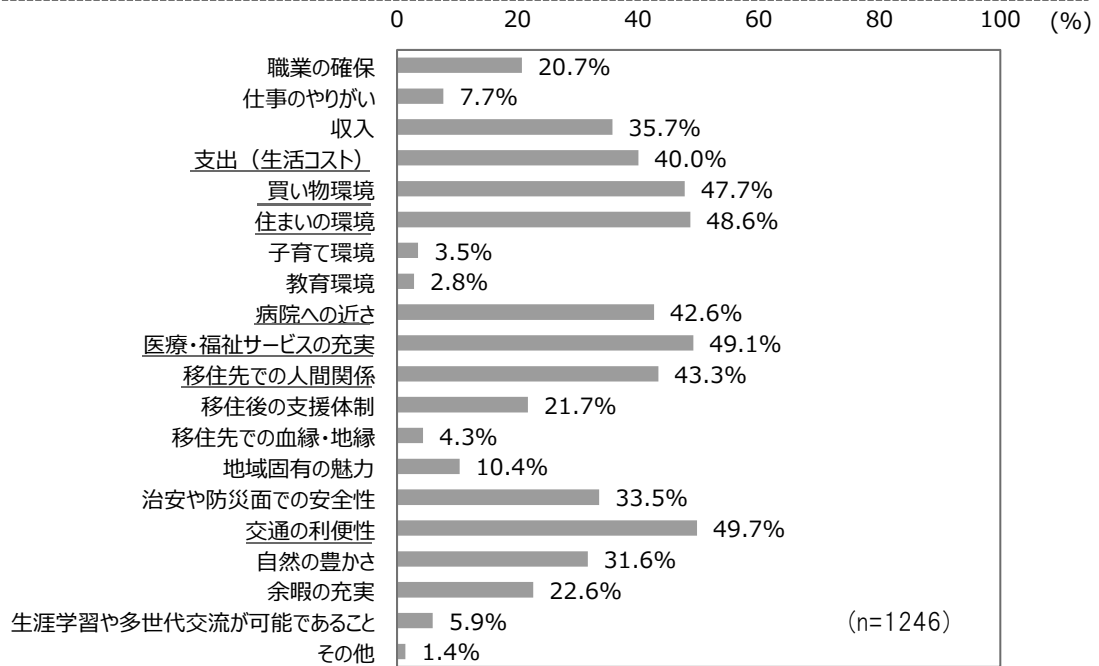
一方、地方への移住について不安に思うことは、生活の利便性や生活レベルの低下、医療・福祉・介護サービスの低下、移住先の生活や風習になじめないことが多くあげられています。

また、若者層に比べ、50歳代・60歳代のシニア層が移住に対する関心が高くなっています。

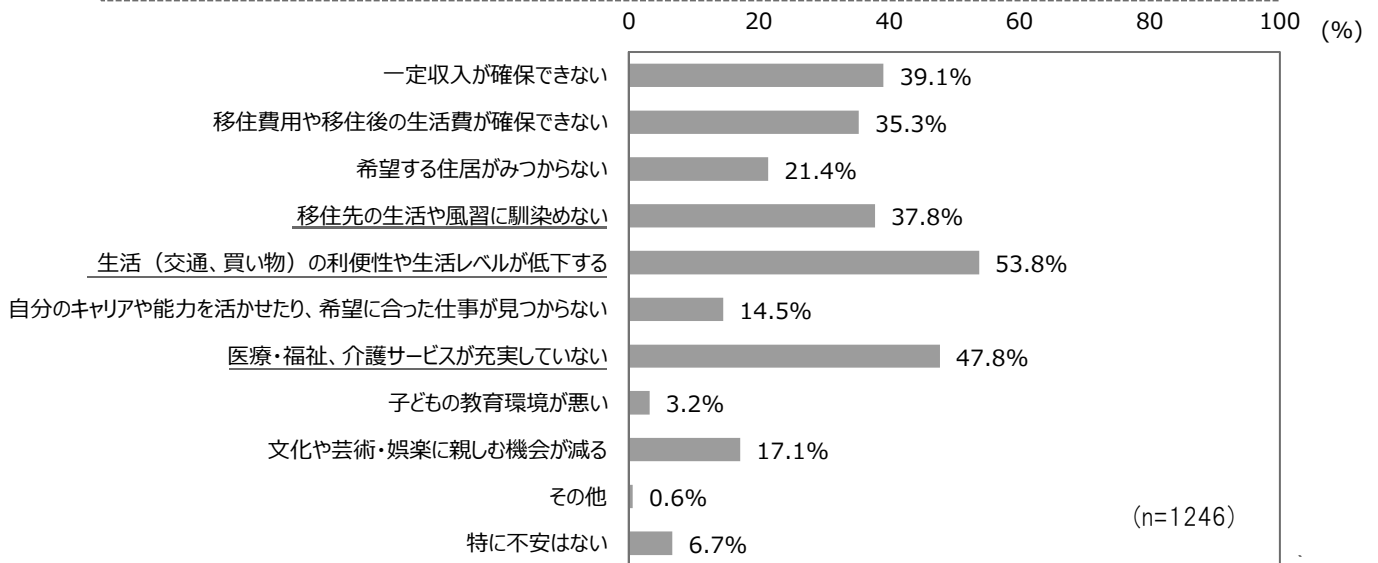
問 地方への移住を検討するきっかけは何だと思いますか。



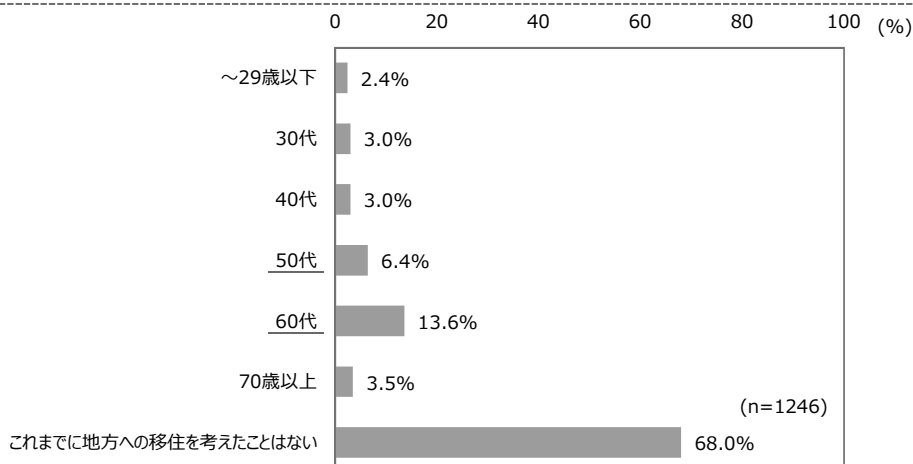
問 特に重要だと考える移住の条件は何だと思いますか。



問 地方への移住について、不安に思うことは何だと思いますか。



問 地方へ移住してみたい時期（年齢）はいつですか。

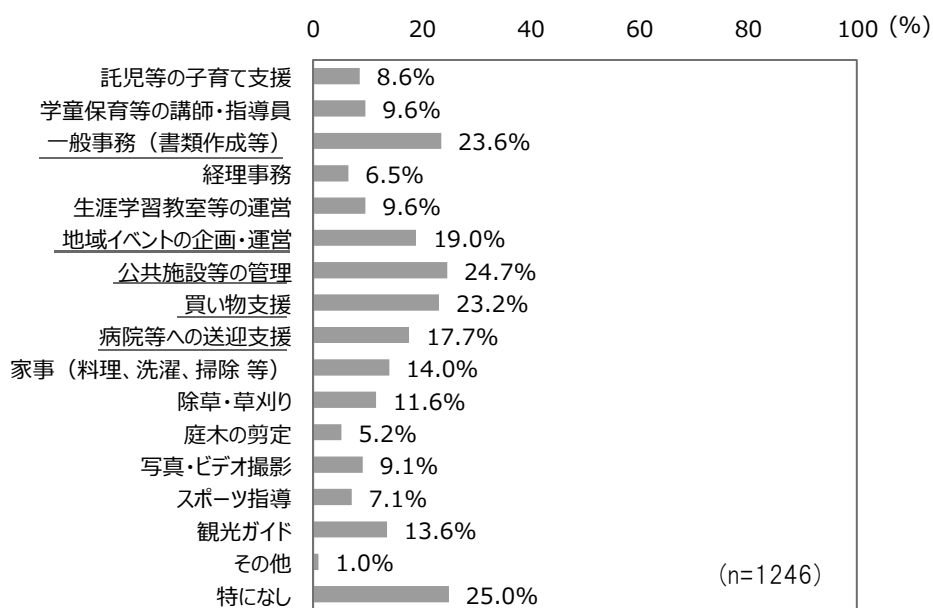


「移住先で参加したい活動等について」

地方に移住した場合、参加したいと思う地域に役立つ仕事や活動については、公共施設等の管理、一般事務などのほかに、買い物支援や病院等への送迎支援に関する仕事などがあげられています。

一方、地域イベントの企画・運営といった多世代交流につながる地域活性化の活動も多くあげられています。

問 地方では、近年、地域に役立つ仕事や活動が求められています。
もしあなたが地方へ移住したら、あなたが参加したいものはどれですか。
あてはまるものをすべてお選びください。



3 地域コミュニティ協議会の意識

本構想の策定に当たり、全 44 地域コミュニティ協議会に、地域活動の取組状況や移住者に対する受入れ支援などについて調査を行いました。

■ アンケート調査の概要 (P50～P56 参照)

- 調査対象：市内全域の 44 地域コミュニティ協議会
- 調査方法：平成 30 年 9 月に手渡しによる配布・郵送回収
- 実施期間：平成 30 年 9 月上旬～下旬
- 回収数：30 協議会(68.2%)

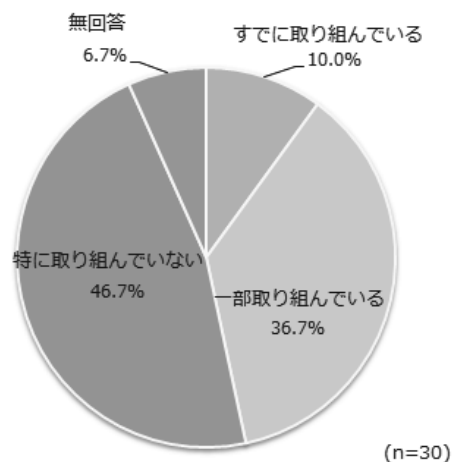
「移住者の受入れ支援等について」

健康でアクティブな生活の実現や地域の多世代住民との協働に対して取り組んでいる、あるいは、一部取り組んでいる協議会は約 5 割を占めています。

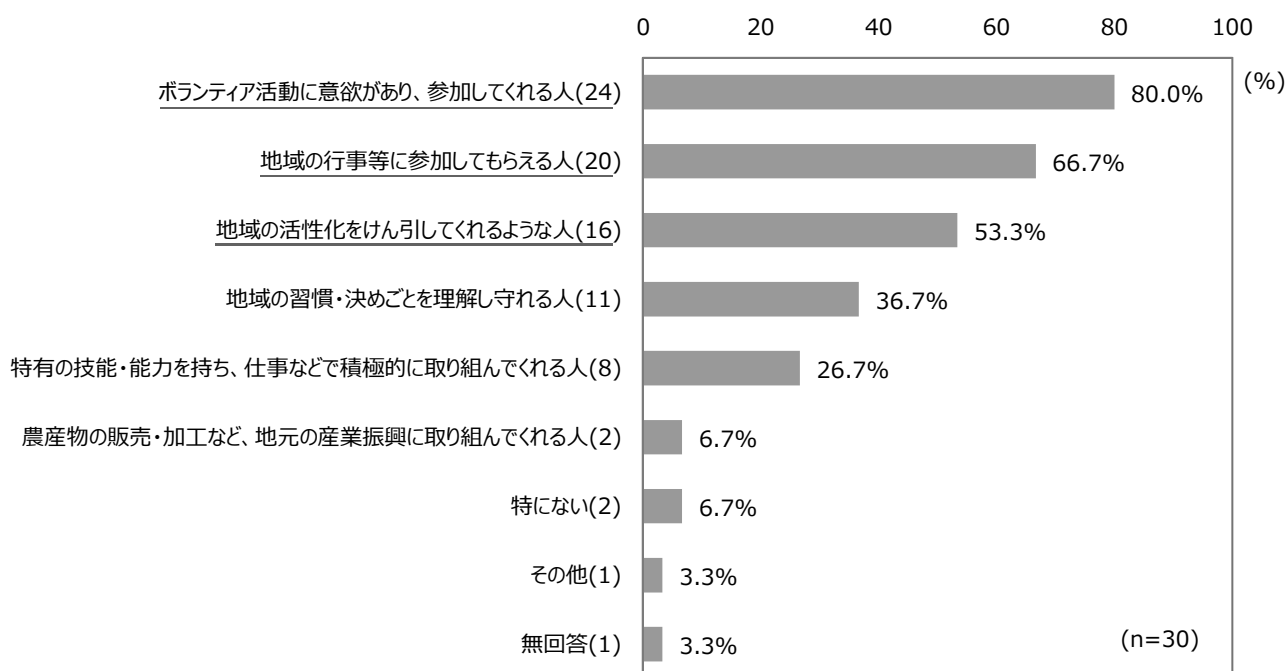
首都圏等から移住者を受け入れる場合、ボランティア活動に意欲があって参加してくれる人や地域の行事等に参加してくれる人、地域の活性化をけん引してくれる人を求める意見が多くあげられています。

また、移住者に対する支援としては、地域活動への参加を勧めたり、地域の習慣やルールなど情報を伝えることが多くあげられています。

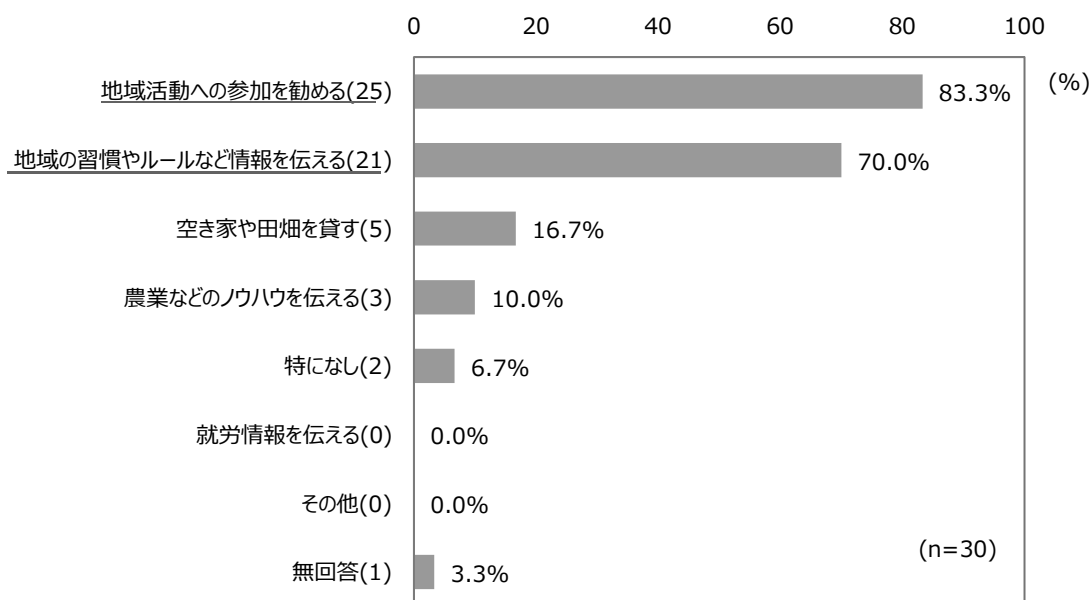
問 国の「生涯活躍のまち構想」に記載されている「健康でアクティブな生活の実現」や「地域の多世代の住民との協働」といったことについて、地域住民を対象に取り組んでいますか。



問 生涯活躍のまちを進めていく中で、首都圏等から移住者を受け入れる場合、貴協議会として、どのような人に地域活動に参加してほしいですか。



問 生涯活躍のまちを進めていく中で、首都圏等から移住者を受け入れる場合、貴協議会として、どのような支援ができますか。



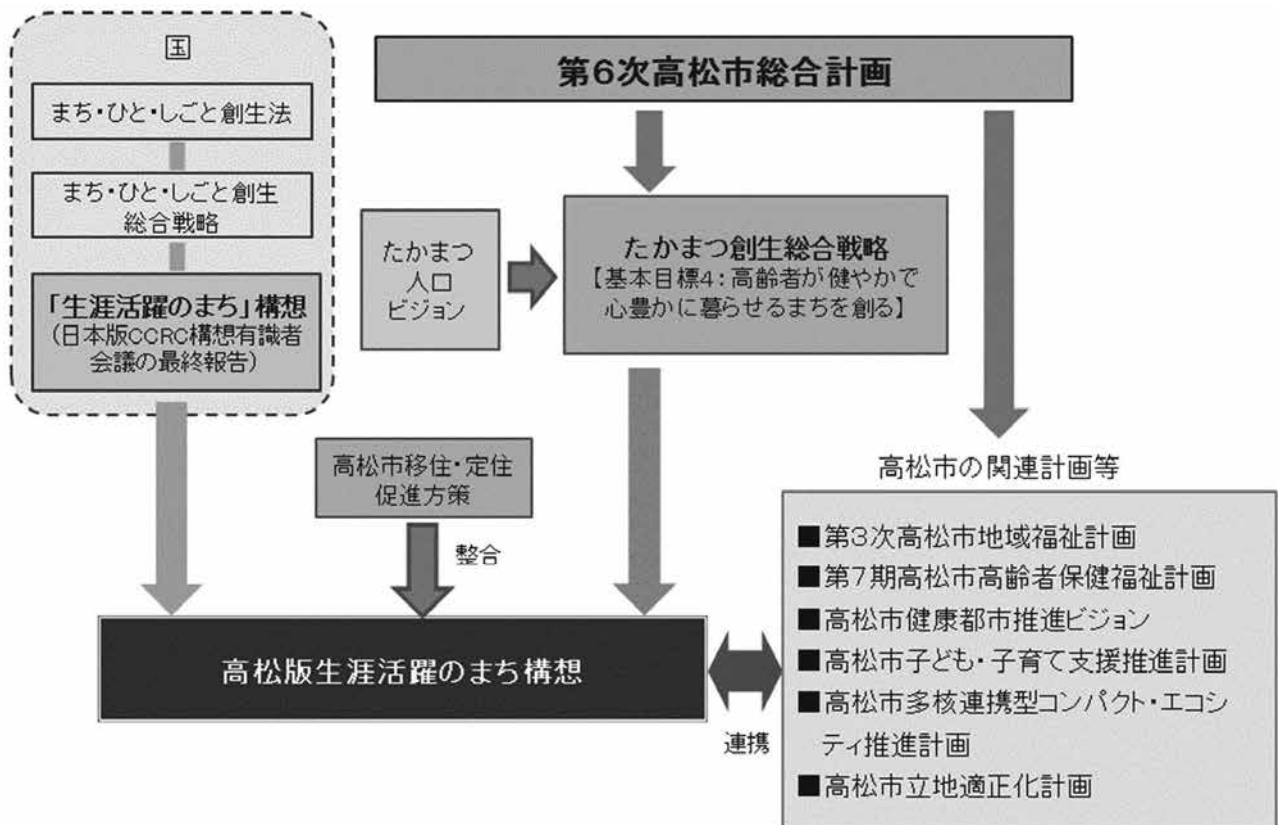
V 高松版生涯活躍のまち構想

1 構想の位置付け

全国的な動向と同様に、本市においても、年少人口や生産年齢人口が減少する一方、高齢者人口が増加する中、今後も都市としての活力を失わず、市民がいきいきと暮らせる持続可能なまちを実現するためには、豊富な経験やスキルを持ち、社会に貢献したいと思っているシニア世代の方に、様々な分野での担い手として、これまで以上に活躍していただくとともに、多様な主体が連携・協働して取組を進めていくことが重要となります。

このため、本市では、総合的かつ計画的なまちづくりや市政運営の根幹をなす「第6次高松市総合計画」における分野別施策の方針を踏まえながら、「人口減少社会」という重要課題に対応するために、「たかまつ創生総合戦略」を策定し、総合計画から人口減少対策に資する施策を「人口減少を抑制する戦略」と「人口減少に対応する戦略」の2つの戦略に再編成しています。

そのうち、「人口減少に対応する戦略」に掲げる基本目標4「高齢者が健やかで心豊かに暮らせるまちを創る」を達成するための取組の指針として「高松版生涯活躍のまち構想」を策定するものです。



2 対象者及び対象区域

構想の主な対象者は、50歳代から60歳代の移住者を含むアクティブシニアとしますが、地域での活躍や多世代との交流、地域の持続的安定性の観点から、幅広い年齢層も対象とします。また、構想の対象区域は、全市域とします。

〔本構想では、就労や趣味、生涯学習などを通じた社会参加に意欲がある、または、自身が持つスキルや経験をいかして、地域活動に取り組む意欲がある元気なシニア世代(50歳代～60歳代)をアクティブシニアとする。〕

3 目指す姿

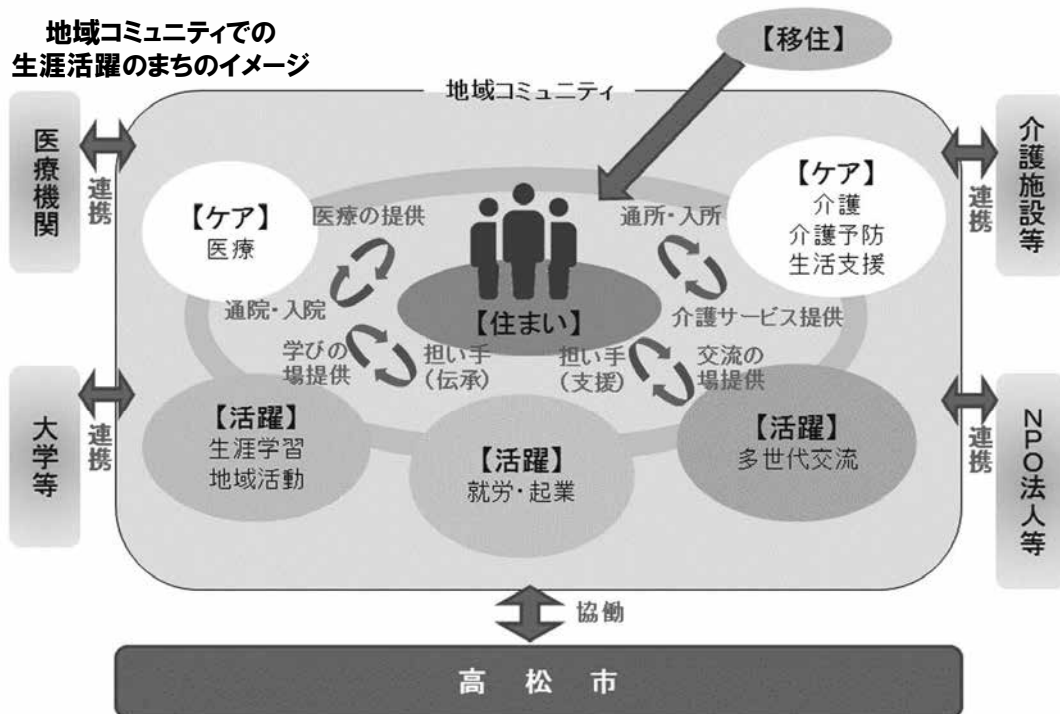
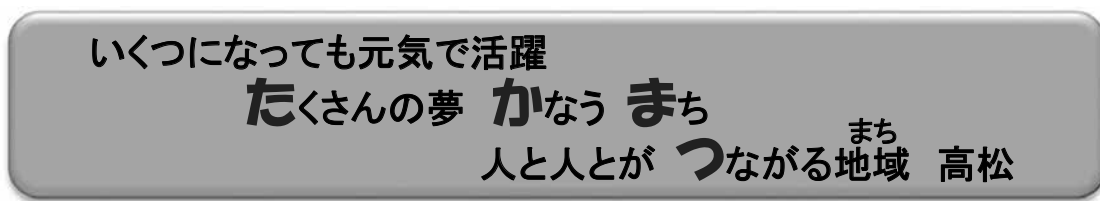
本市では、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい人生を最後まで続けられるよう、「医療」、「介護」、「介護予防」、「生活支援」、「住まい」が切れ目なく一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に取り組む中、介護や育児など、複合的な問題を抱えた世帯を包括的に支援する地域共生社会の実現を目指しています。

また、人口減少を抑制するための施策として、移住・定住の促進に取り組むほか、地域コミュニティの自立・活性化にも取り組んでおり、各地域においては、多世代交流や地域活動などを通じて、地域の個性をいかした住みやすいまちづくりが進められています。

本市のこれらの取組は、国の生涯活躍のまち構想の主旨と同じくするものと考えられます。

そのため、構想の展開に当たっては、全市域で構築されている地域コミュニティ単位で、生涯活躍のまちの考えを踏まえ、それぞれが持つ地域特性をいかしたアクティブシニアが活躍できるまちづくりに取り組むことが、高松らしい生涯活躍のまちと考えられます。

このようなことから、地域コミュニティ協議会を軸として、移住者を含むアクティブシニアが、地域に溶け込み、多世代の地域住民との交流をしながら、自らの経験やスキルをいかして生涯健康で生きがいを持って活躍できるまちづくりの全市的な展開を目指す姿とします。

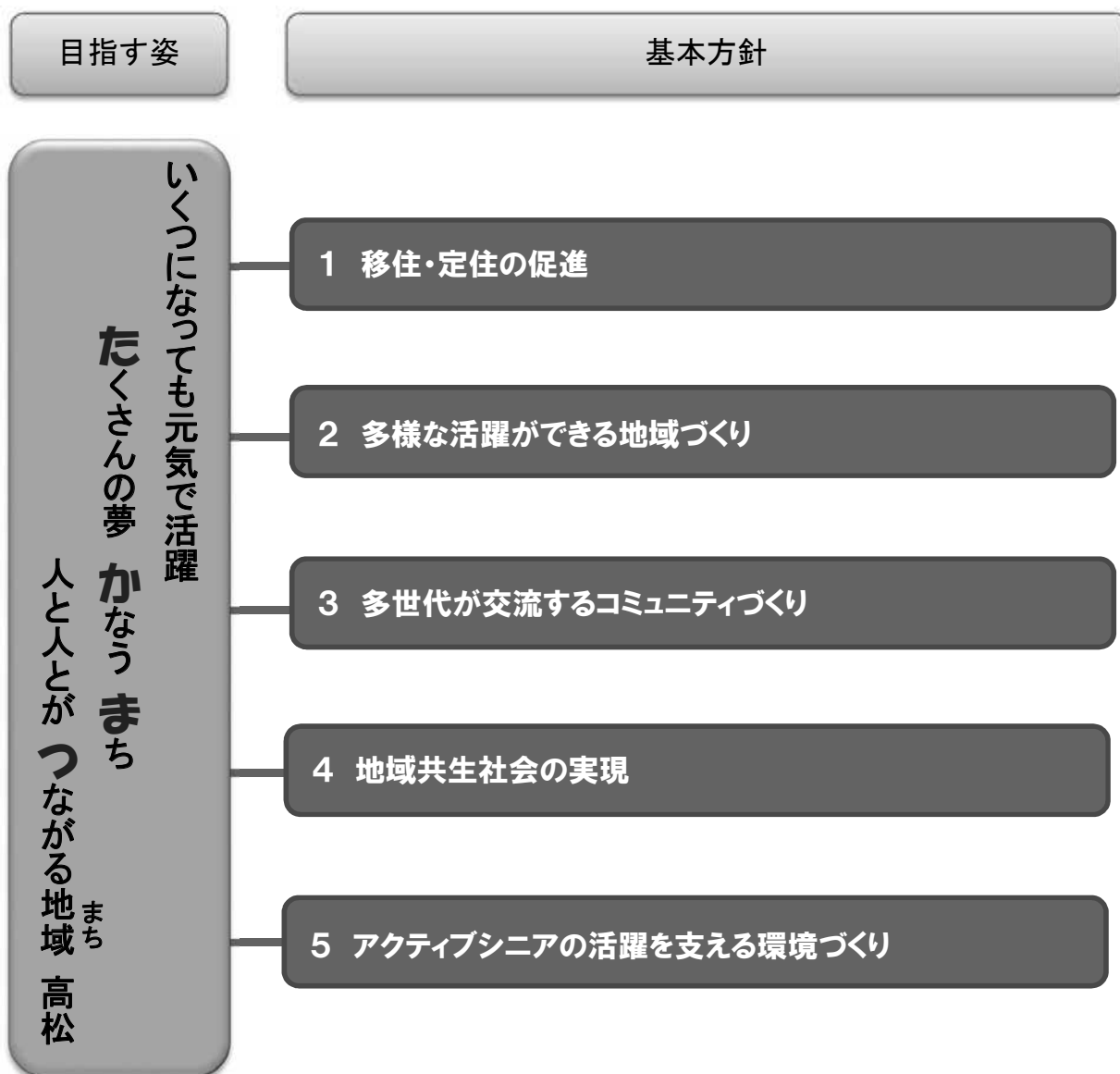


- 〈医療〉
○地域で継続的に受けられる医療サービスの提供
- 〈生涯学習・地域活動〉
○多様な市民活動・生涯学習の場の創出
○知識・経験をいかした地域活動の場の創出
- 〈就労・起業〉
○ライフスタイルに合わせた就労・起業機会の提供

- 〈介護・介護予防・生活支援〉
○地域で継続的に受けられる介護サービスの提供
○いつまでも元気に暮らすための生活支援・介護予防の実施
- 〈多世代交流〉
○子どもから高齢者まで多世代が交流・支え合うコミュニティを構築

4 基本方針

「Ⅱ 高松市の現状」や「Ⅲ 高松市のいかすべき地域特性」、「Ⅳ 生涯活躍のまちに対する意識」を踏まえ、次の5つを基本方針として、生涯活躍のまちづくりを進めていきます。



基本方針 1 移住・定住の促進

今後、ライフスタイルに応じて、移住を希望するアクティブシニアが増えてくると考えられます。

便利な都市機能をはじめ、海・山・島などの豊かな自然や多彩なイベントなどの本市の魅力を、本市出身者や、かつて勤務地として本市に住んだことがある、本市にゆかりのある方などに広く発信するとともに、移住に関する不安の解消に努め、移住者の受け入れ態勢を構築することで、本市と多様な関わりを持つ人との継続的なつながりを広げることや移住・定住の促進を目指します。

主な取組

- 移住・定住促進事業
- 生涯活躍のまちづくり推進事業（啓発、人材育成）
- 地域おこし協力隊活動事業

基本方針 2 多様な活躍ができる地域づくり

アクティブシニアが地域社会で生涯活躍するためには、就労のほか、地域活動や生涯学習などの社会活動への参加の機会を提供することが大切となります。

また、地域では、ボランティア活動や各種行事などに参加してくれる人、それらをけん引してくれる人を求めており、スキルや経験が豊富なアクティブシニアが、これらの活動の担い手になることが期待されます。

そのため、地域での就労機会の確保をはじめ、コミュニティセンター講座や大学と連携した生涯学習の場づくりなどを進め、アクティブシニアの生きがいとなる事業の充実を図ります。また、自身のスキルをいかしたボランティア活動などの社会活動に関する機会づくりに取り組み、地域の担い手として、アクティブシニアが生きがいを持ちながら活躍できる地域づくりを目指します。

主な取組

- シルバー人材センター運営補助事業
- 老人クラブ活動助成事業
- 高齢者就労支援事業
- 地域食育推進事業
- 総合的な学習の時間活性化推進事業
- 高齢者教育推進事業
- コミュニティセンター講座事業
- 生涯学習推進事業
- 中小企業指導団体等育成事業

基本方針 3 多世代が交流するコミュニティづくり

地域コミュニティ協議会では、地域の活性化のために、夏まつりや文化祭など多世代が参加する様々な地域活動に取り組んでいます。

アクティブシニアが、このような地域活動への参加を通じて、地域に溶け込み、子どもや子育て世代、高齢者などの多世代と交流する機会を数多く創出するなど、地域に住む人との結びつきを強め、地域住民がつながる持続可能なコミュニティの形成を目指します。

主な取組

- 子どもを中心にした地域交流事業
- コミュニティ推進事業
- 自治会活動推進事業
- 地域まちづくり交付金事業

基本方針 4 地域共生社会の実現

人口減少、少子・超高齢社会を迎える中、高齢期になっても、いきいきと自分らしく暮らすためには、生涯にわたり心身の健康づくりに取り組むことが重要です。

このため、アクティブシニアが社会参加を通じて、生きがいや楽しみを持ちながら、健康で元気な生活を実現できる仕組みを構築し、健康寿命の延伸を図ります。

また、地域包括ケアシステムとの連携により、年齢を重ねて医療や介護が必要になっても、継続的なケアを受けることができ、住み慣れた地域でいきいきと暮らせるまちを目指します。

さらに、高齢者をはじめ、子どもや障がい者など、全ての人が、地域・暮らし・生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」の実現に向けて取り組みます。

主な取組

- 生活支援・介護予防サービス提供体制構築事業
- 介護予防推進事業
- 瓦町健康ステーション事業
- 高齢者居場所づくり事業
- 高齢者と地域の交流事業
- 地域保健推進事業
- 健康づくり推進事業
- 高松型地域共生社会構築事業

基本方針 5 アクティブシニアの活躍を支える環境づくり

本市は、都市的利便性を備えているとともに、変化に富む自然環境を保有しており、田園に囲まれた暮らし、あるいは、まちなか暮らしなど、多種多様な暮らし方を選択することができます。

このため、本市の特徴である便利な都市機能のさらなる発展と、豊かな自然を維持していくことで、アクティブシニアが希望に沿った暮らし方や住まい方が送れるような環境づくりを目指します。

主な取組

- 多核連携型コンパクト・エコシティ推進事業
- 地域公共交通再編事業
- 公共交通利用促進事業

5 取組の評価

生涯活躍のまちの実現を目指し、第6次高松市総合計画の終期を見据えながら、次の指標を設定し、フォローアップを図ります。

指 標	平成 29 年度 (2017 年度)	2023 年度
本市の1年間の転入者数と転出者数の差 (社会増減) ※ 1	660 人	1,570 人
移住者数 (50 歳代及び 60 歳代) ※ 2	47 人	74 人
「高齢者の居場所」のうち、多世代交流を実施している割合 ※ 3	18.0%	30.0% (2020 年度)
「たかまつ移住応援隊」の地域サポーターとして活動する地域コミュニティ協議会の数	4 協議会	44 協議会
介護・支援を必要としていない 65 歳以上の高齢者の割合 ※ 1	79.3%	74.6%
65 歳以上で介護保険の要介護 2～5 の認定者の割合 ※ 1	10.7%	11.1%
「住みやすさ」に対する市民満足度 (50 歳代及び 60 歳代)	86.1%	91.5%

※ 1 第6次高松市総合計画の成果指標を引用しています。

※ 2 移住者数については、市民課等の窓口に入居届を提出する際、任意のアンケートなどにより把握したものです。

※ 3 第7期高松市高齢者保健福祉計画の指標を引用しています。

6 庁内推進体制

本構想策定後は、庁内の関係課による横断的な組織を設置し、必要に応じて外部有識者の意見を聴取しながら、生涯活躍のまちづくりを推進します。

付属資料

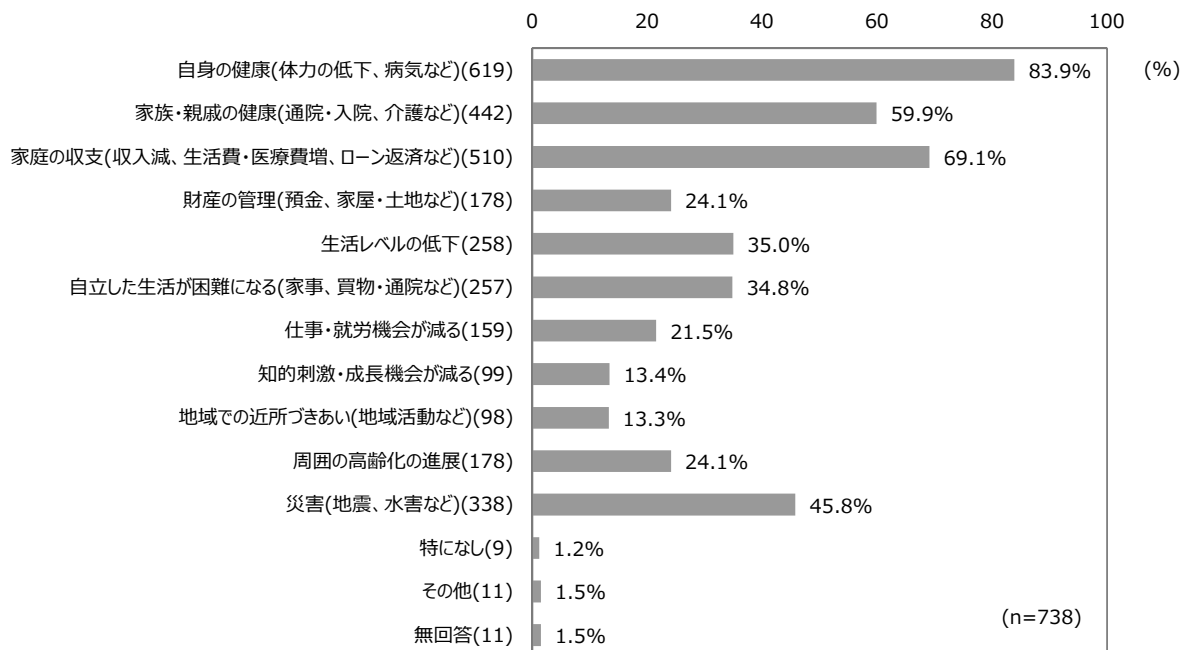
◇調査結果の見方◇

- ①割合は合計値を 100.0%として算出しており、図表中の構成比(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。
- ②複数回答の場合は、比率の合計は100.0%を超える場合があります。

(1) 高松市民アンケート調査結果

問1 あなたが「シニア世代」になるに当たって不安に思うことは何ですか。(複数回答)

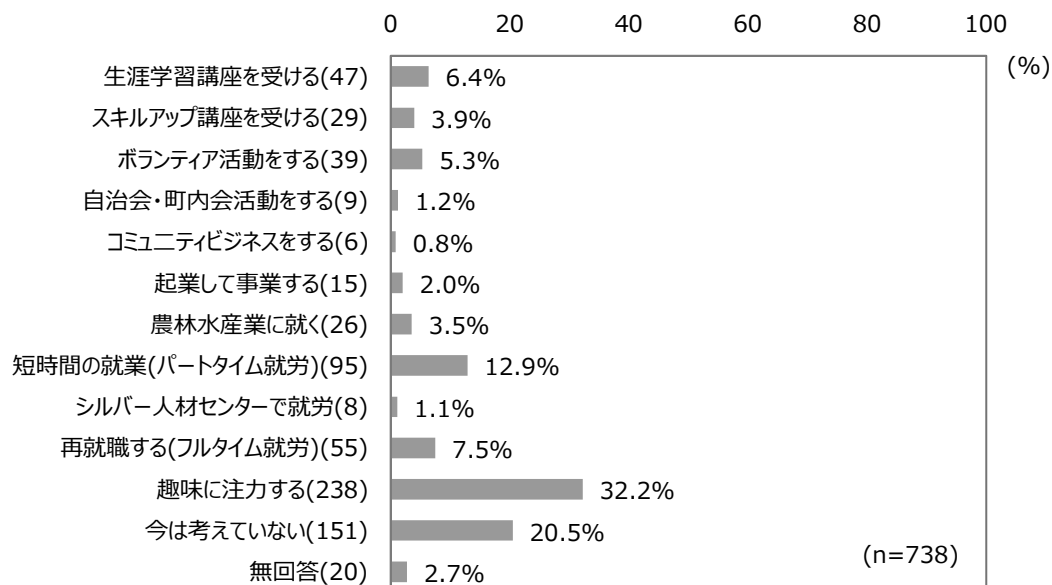
・「自身の健康(体力低下、病気など)」が83.9%と最も多く、生活費や家族の介護、生活レベルの低下などが高い割合を占めている。



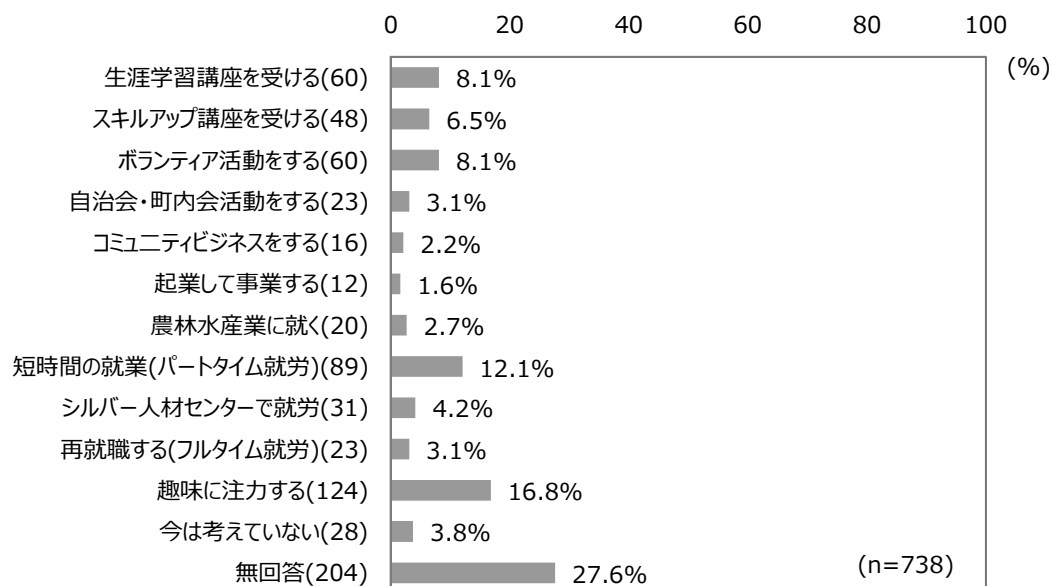
問2 あなたが「シニア世代」になってしたいことは何ですか。したいことの順に3つ選んでください。

・「趣味に注力する」をはじめ、就労やボランティア活動に関する回答が多くあげられている。

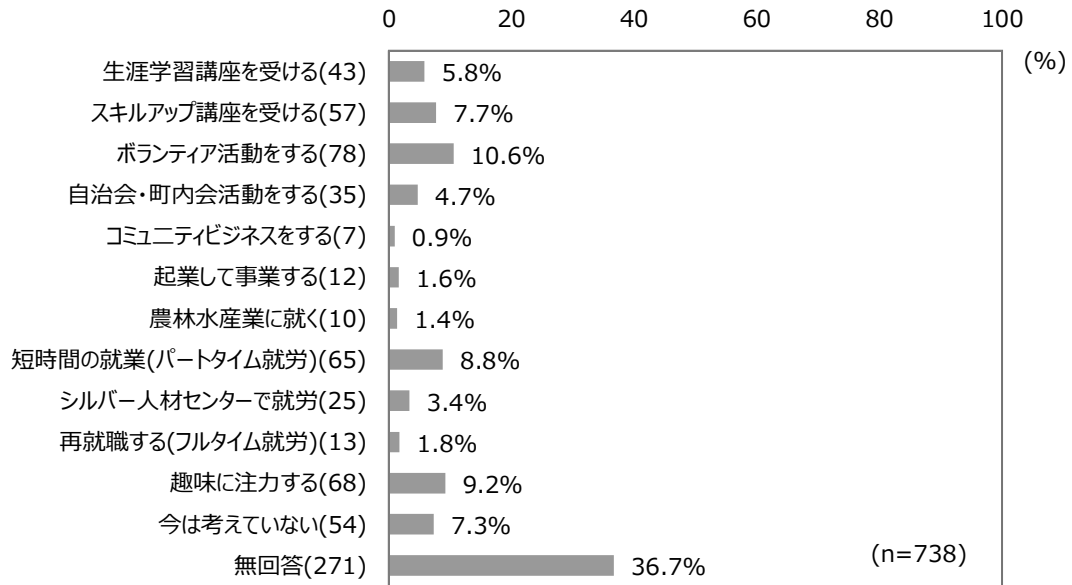
【1番目】



【2番目】

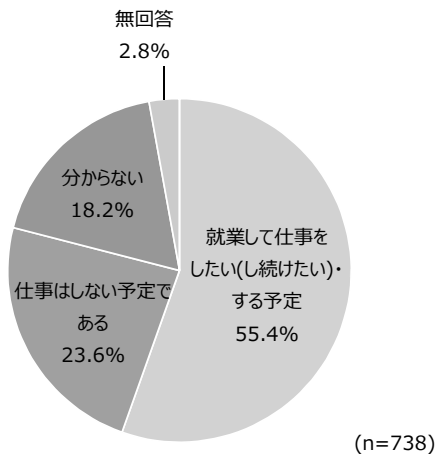


【3番目】



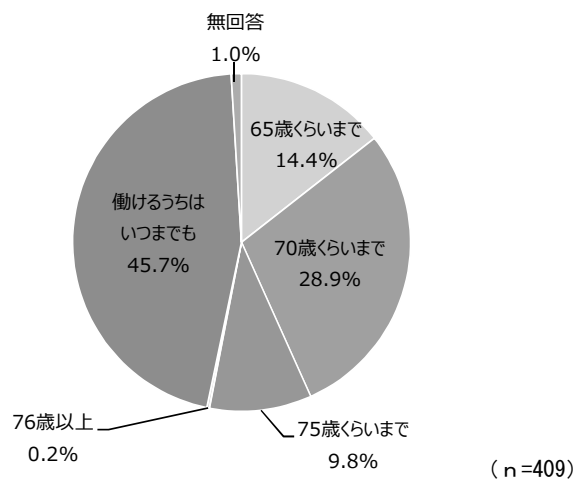
問3 あなたは、「シニア世代」になって収入のある仕事をしたいと思われるか。

・「就業して仕事をしたい(し続けたい)・する予定」が55.4%となっている。



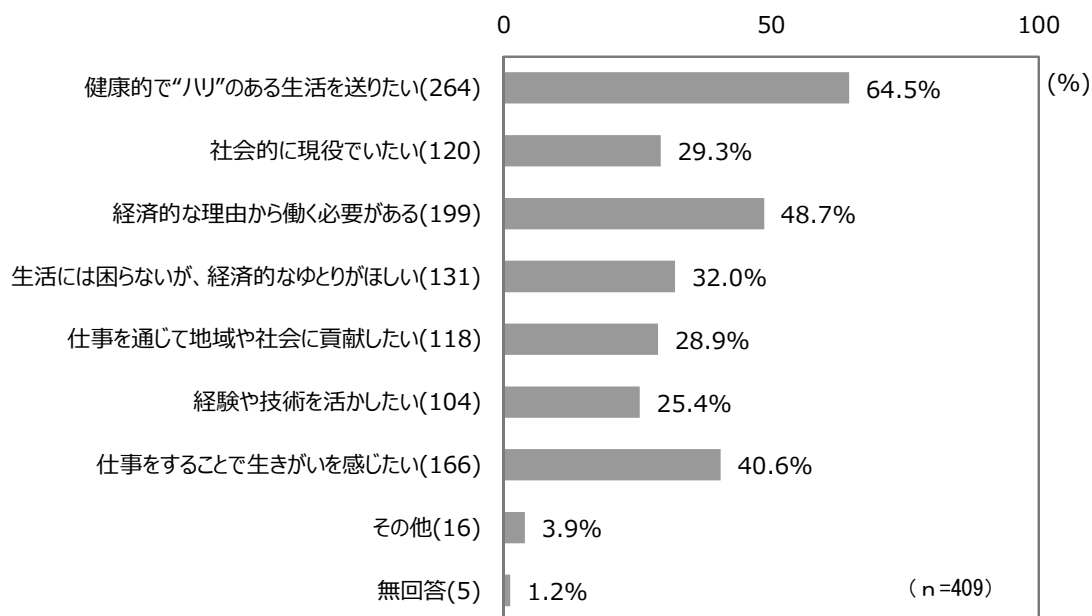
問4 問3で「就業して仕事をしたい(し続けたい)・する予定」と回答された方にお聞きします。何歳ごろまで仕事をしたいですか。

・「働けるうちはいつまでも」が45.7%と最も多く、「70歳くらいまで」の28.9%、「65歳くらいまで」の14.4%が、それに次いで多くなっている。



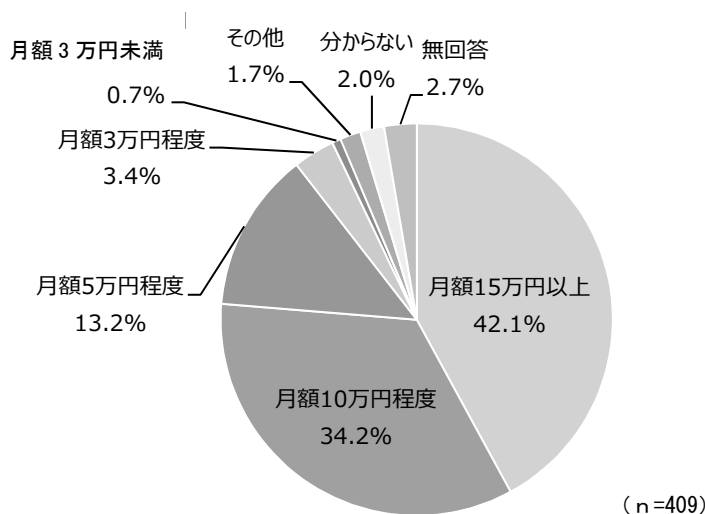
問5 問3で「就業して仕事をしたい（し続けたい）・する予定」と回答された方にお聞きします。仕事をしたい理由は何ですか。（複数回答）

・「健康的で“ハリ”のある生活を送りたい」が64.5%と最も多く、「経済的な理由から働く必要がある」の48.7%、「仕事をする事で生きがいを感じたい」の40.6%が、それに次いで多くなっている。



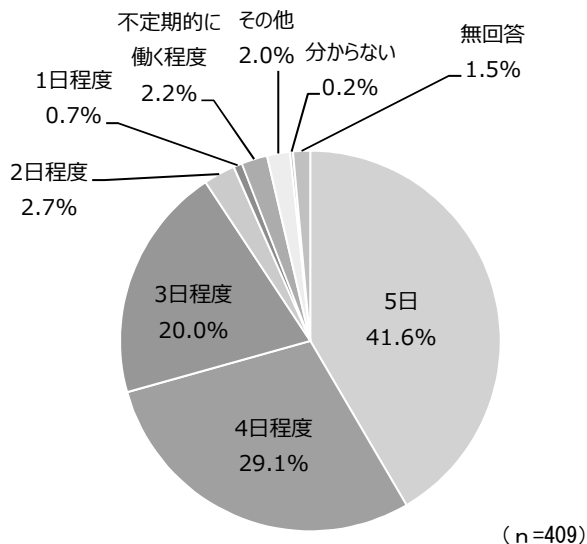
問6 問3で「就業して仕事をしたい（し続けたい）・する予定」と回答された方にお聞きします。その仕事に対して求める報酬として、あなたの考えに近いものはどれですか。

・「月額15万円以上」が42.1%と最も多く、「月額10万円程度」の34.2%、「月額5万円程度」の13.2%が、それに次いで多くなっている。

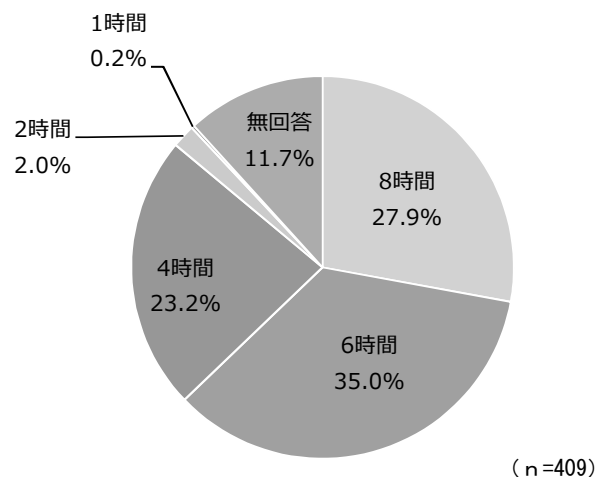


問7 問3で「就業して仕事をしたい（し続けたい）・する予定」と回答された方にお聞きします。働き方として、あなたの考えに近いものは次のどれですか。週に働く日数と、その時の希望する就業時間を教えてください。

【週に働く日数】

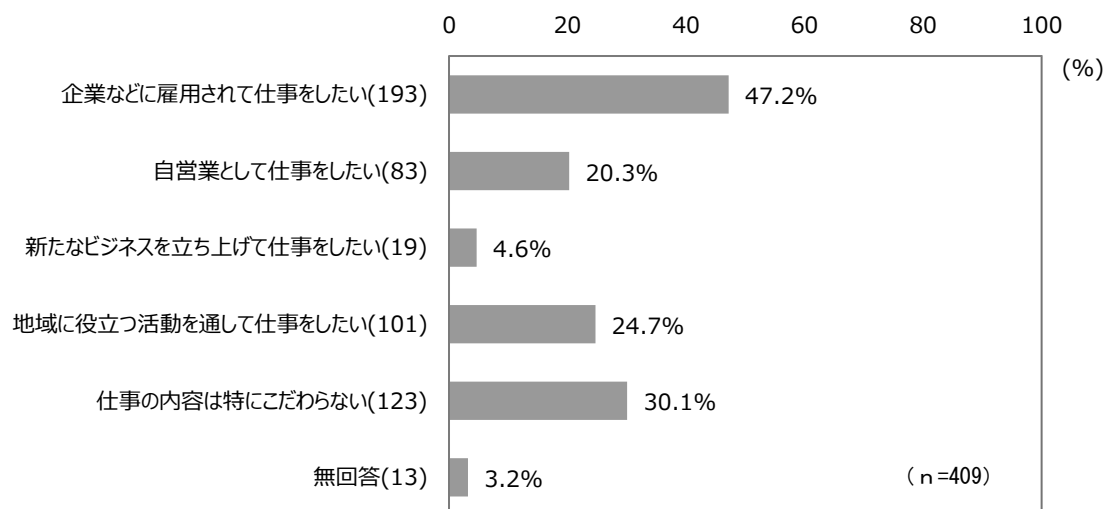


【希望する就業時間】



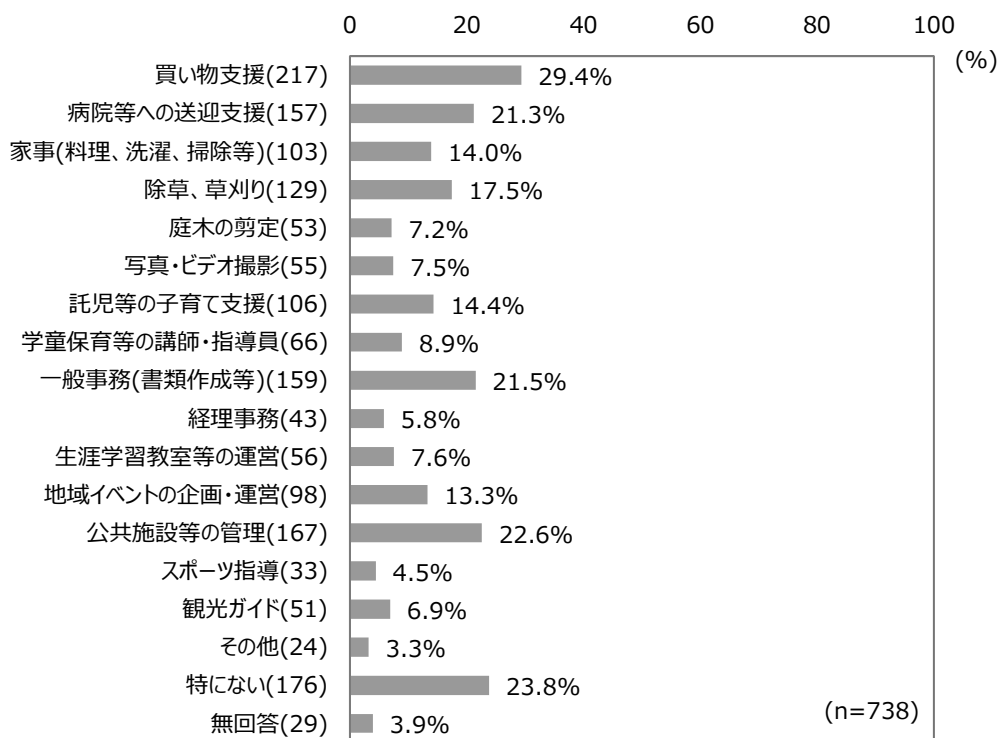
問8 問3で「就業して仕事をしたい（し続けたい）・する予定」と回答された方にお聞きします。したい仕事の内容はどのようなものですか。（複数回答）

・「企業などに雇用されて仕事をしたい」が47.2%と最も多く、「仕事の内容は特にこだわらない」の30.1%、「地域に役立つ活動を通して仕事をしたい」の24.7%が、それに次いで多くなっている。



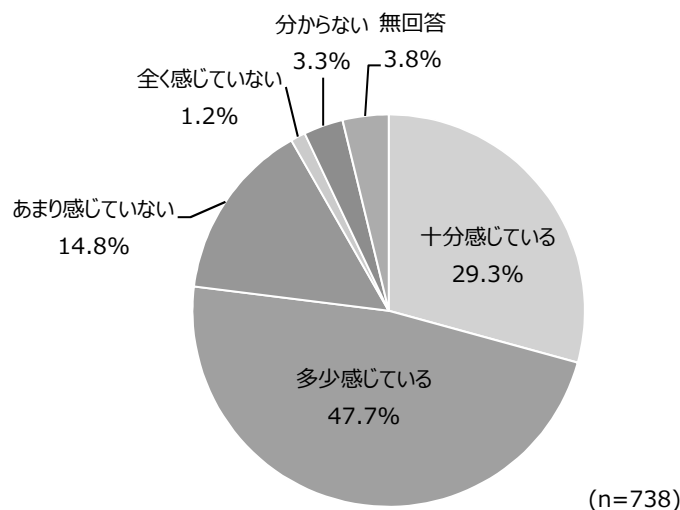
問 9 近年、地域に役立つ仕事や活動が求められるようになっていきます。次のような仕事や活動について、あなたが参画できるもの、または参画したいものはどれですか。（複数回答）

・「買い物支援」が 29.4%、「病院等への送迎支援」が 21.3%と高齢者等への生活支援に対する意見が多くなっている。



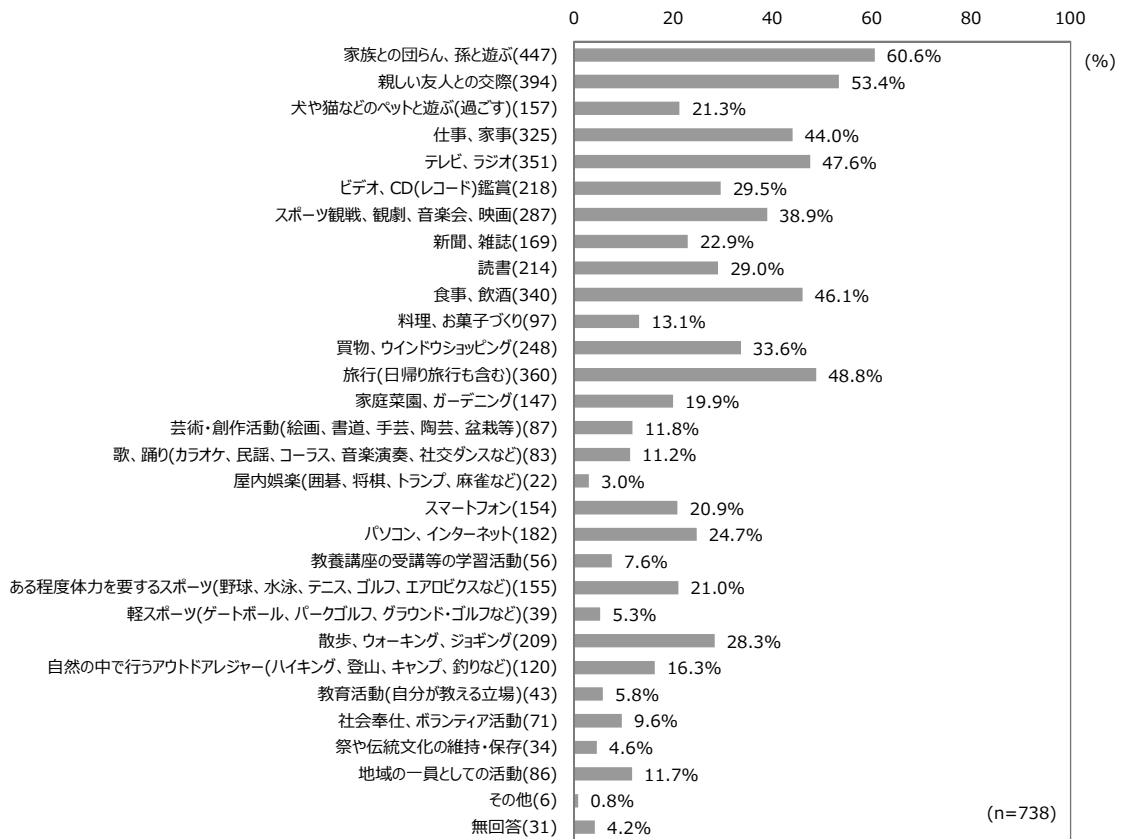
問 10 現在、どの程度生きがい（喜びや楽しみ）を感じていますか。

・「十分感じている」、「多少感じている」と答えた人が、全体の 77%となっている。



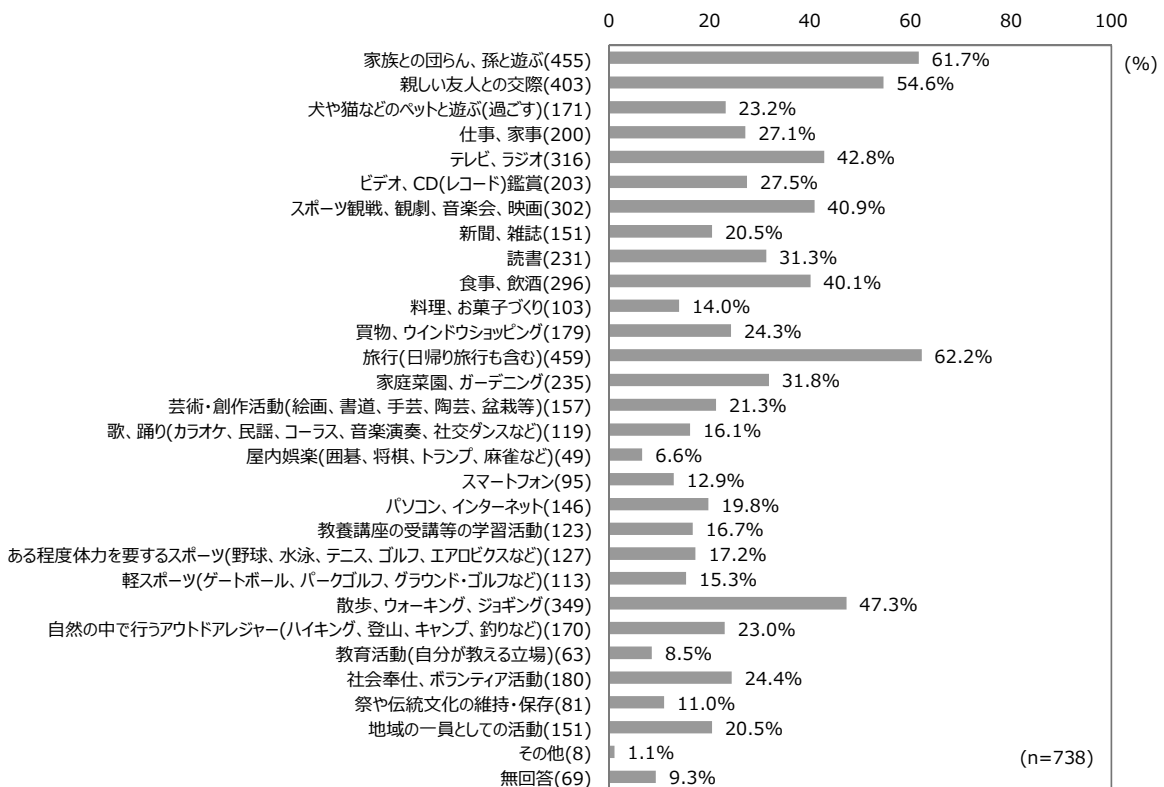
問 11 あなたの現在の楽しみや生きがいは何ですか。（複数回答）

・「家族との団らん、孫と遊ぶ」が60.6%と最も多く、「親しい友人との交際」の53.4%、「旅行（日帰り旅行も含む）」の48.8%が、それに次いで多くなっている。



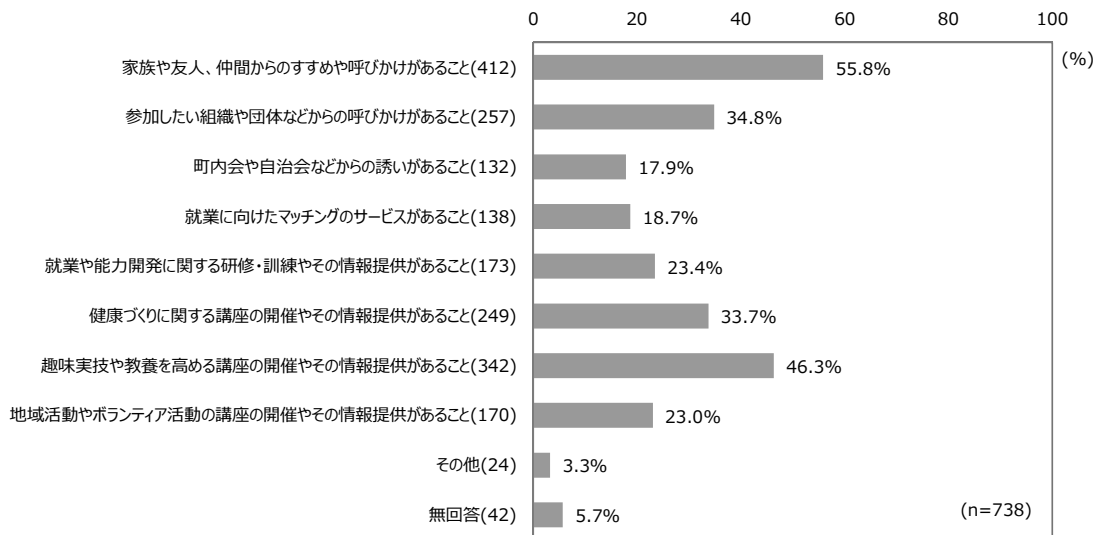
問 12 あなたのシニア世代における楽しみや生きがいは何だと思えますか。（複数回答）

・「旅行（日帰り旅行も含む）」が62.2%と最も多く、「家族との団らん、孫と遊ぶ」の61.7%、「親しい友人との交際」の54.6%が、それに次いで多くなっている。



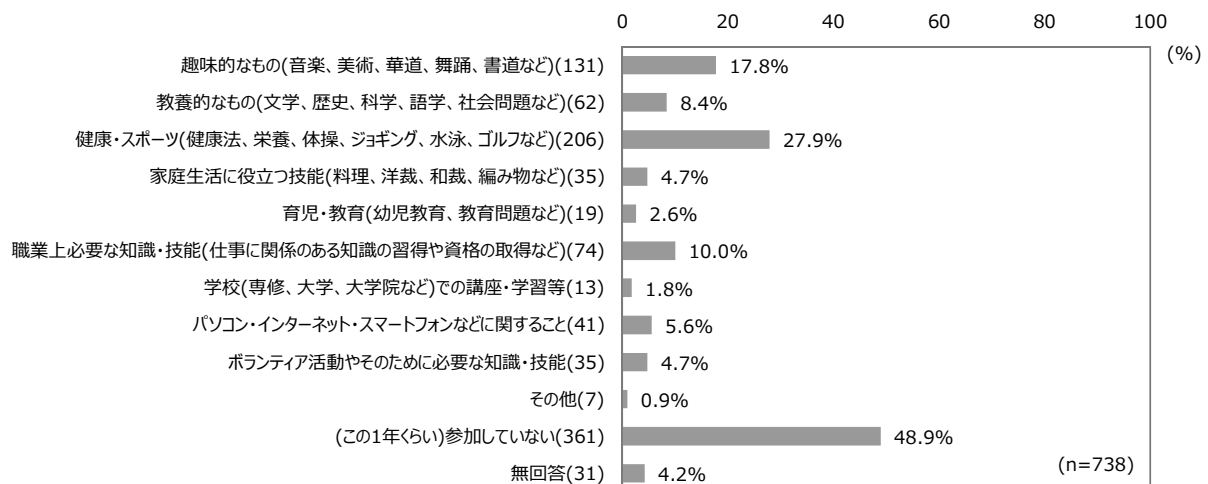
問 13 新たな楽しみや生きがいを見出すために、どのようなきっかけや支援策などがあれば活動しやすいと思いますか。（複数回答）

・「家族や友人、仲間からのすすめや呼びかけがあること」が 55.8%と最も多く、趣味や健康づくりに関する講座や、その情報提供があることが比較的多くなっている。



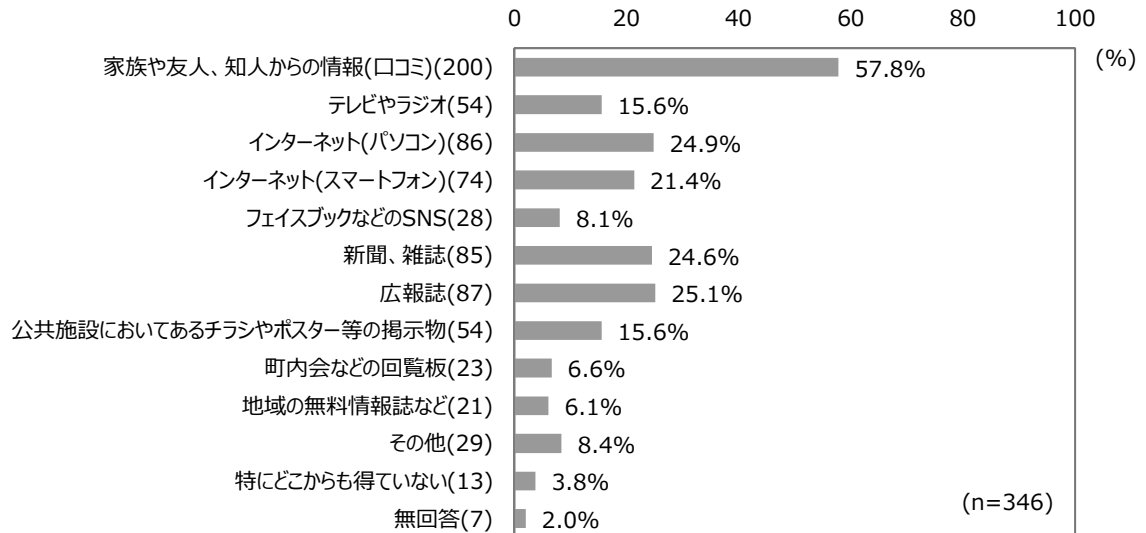
問 14 あなたは、この1年くらいの中に、講座やスポーツ活動などに参加したことがありますか。（複数回答）

・「（この1年くらい）参加していない」が 48.9%と最も多く、「健康・スポーツ（健康法、栄養、体操、ジョギング、水泳、ゴルフなど）」の 27.9%、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」の 17.8%が、それに次いで多くなっている。



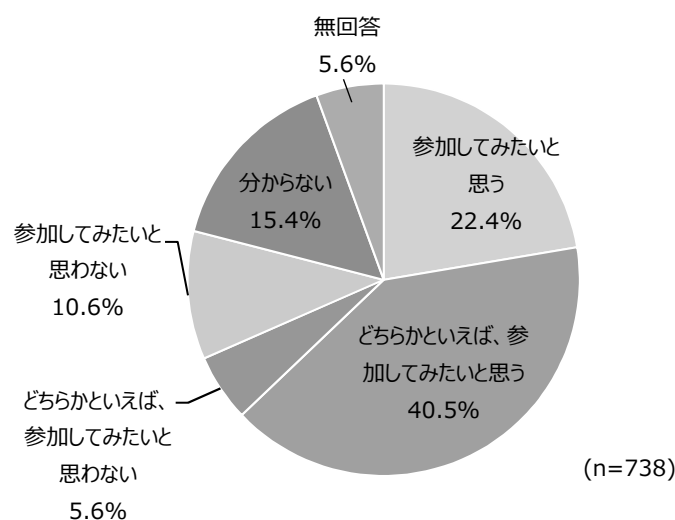
問 15 問 14 で「参加したことがある」と回答された方にお聞きします。あなたは、講座やスポーツ活動などに関する情報を、主にどのような手段で得ていますか。（複数回答）

・「家族や友人、知人からの情報（口コミ）」が 57.8%と最も多く、パソコンやスマートフォンを利用したインターネットのほか、新聞や広報誌が比較的多くなっている。



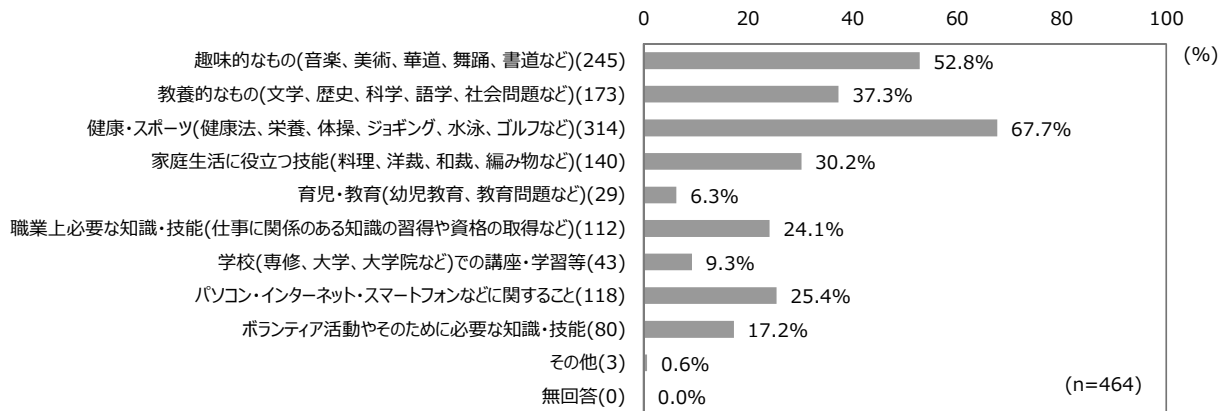
問 16 あなたは、今後、新たに講座やスポーツ活動などに参加してみたいと思いますか。

・「参加してみたいと思う」、「どちらかといえば、参加してみたいと思う」と回答した人が、全体の 60%程度となっている。



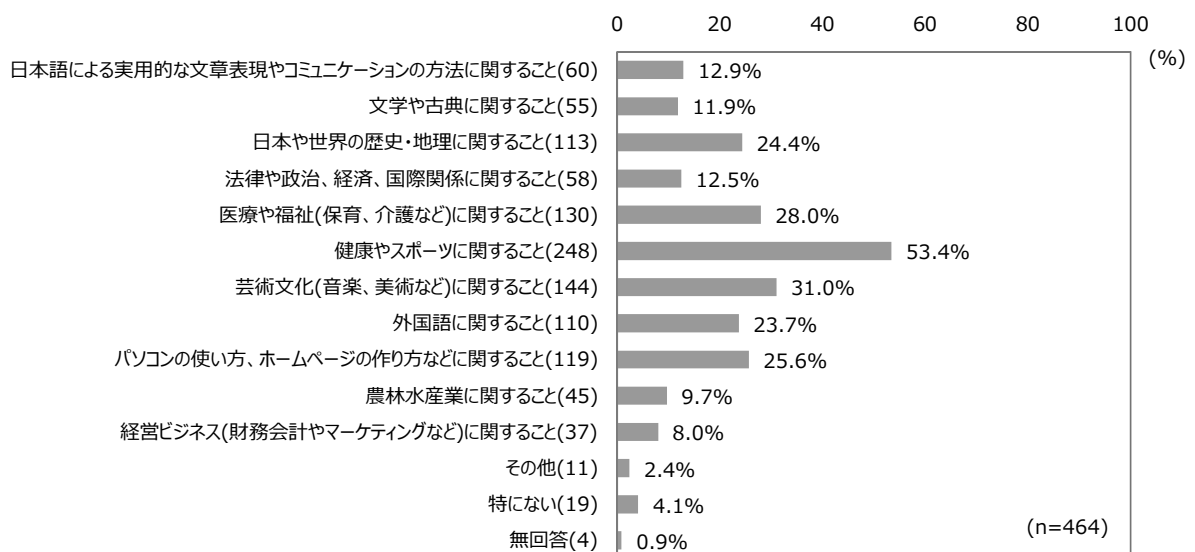
問 17 問 16で「参加してみたい」と回答された方にお聞きします。どのような分野の講座やスポーツに参加してみたいと思いますか。（複数回答）

・「健康・スポーツ（健康法、栄養、体操、ジョギング、水泳、ゴルフなど）」が67.7%と最も多く、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」の52.8%、「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、社会問題など）」の37.3%が、それに次いで多くなっている。



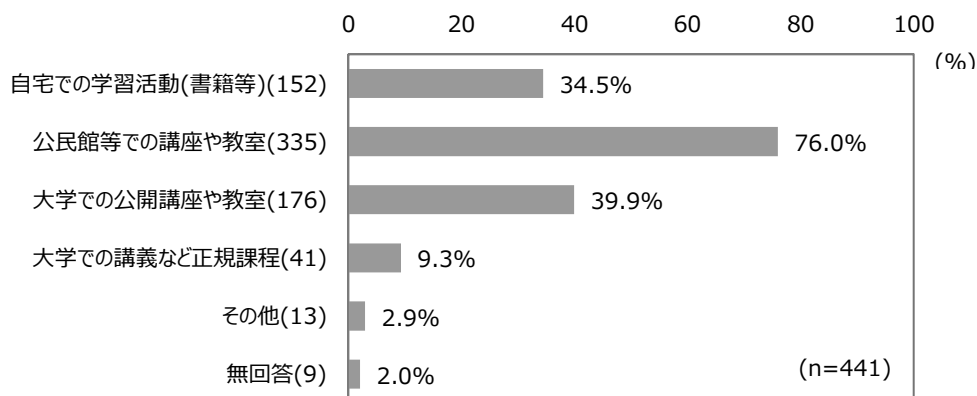
問 18 問 16で「参加してみたい」と回答された方にお聞きします。今後、生涯学習の一環として機会があれば学んでみたいと思うものはありますか。（複数回答）

・「健康やスポーツに関すること」が53.4%と最も多く、「芸術文化（音楽、美術など）に関すること」の31.0%、「医療や福祉（保育、介護など）に関すること」の28.0%が、それに次いで多くなっている。



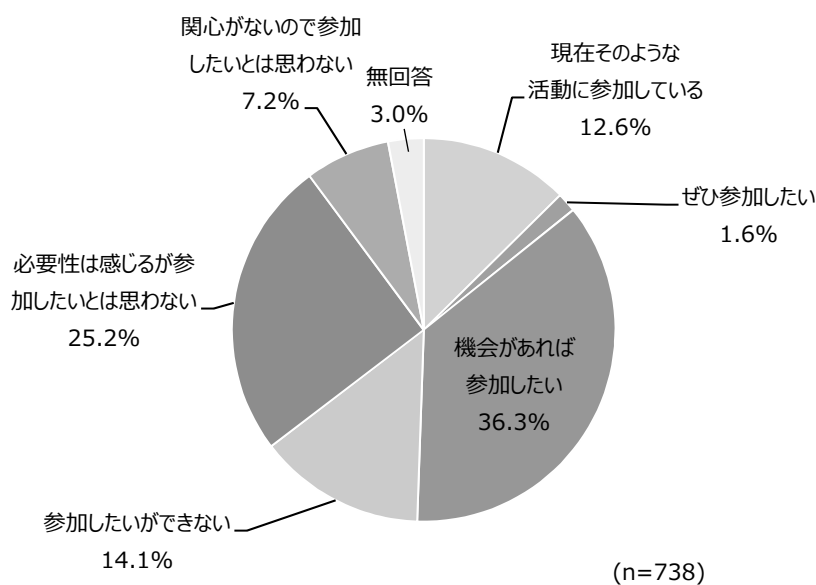
問 19 問 18 で「学んでみたい」と回答された方にお聞きします。どのような形式で学んでみたいと思いますか。（複数回答）

・「公民館等での講座や教室」が 76.0%と最も多く、大学での公開講座や自宅での学習活動も比較的多くなっている。



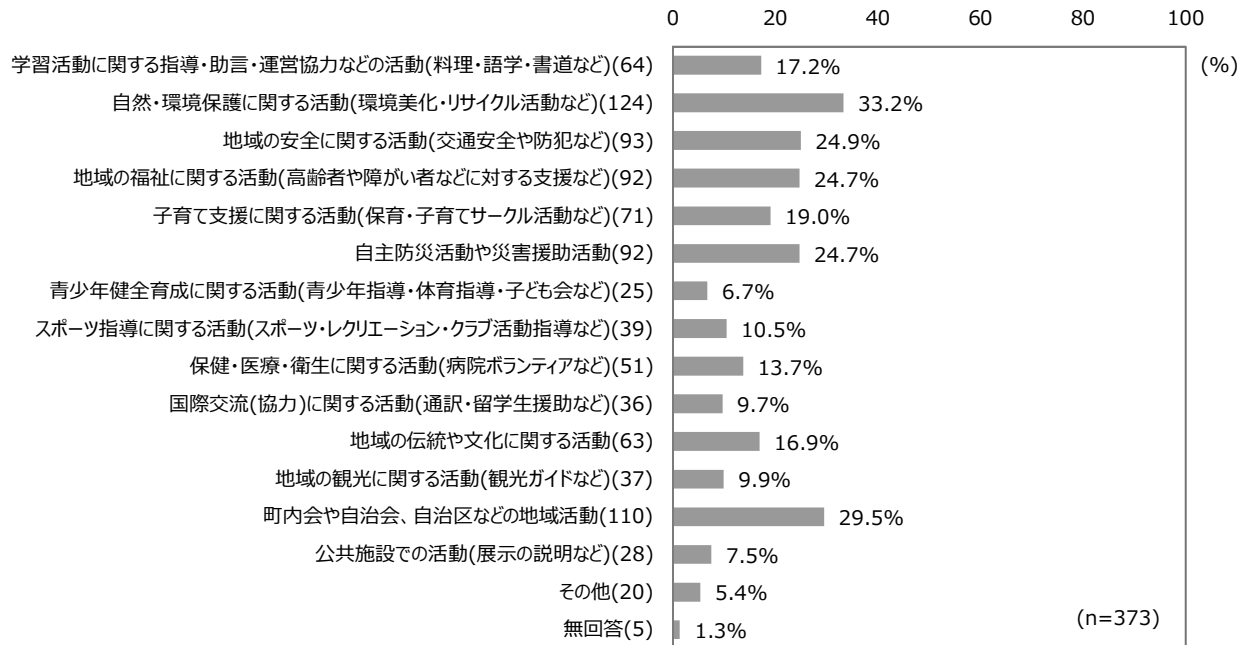
問 20 地域活動やボランティア活動などの社会参加・貢献活動について、あなたの考えに近いものはどれですか。

・現在、活動に参加している人も含め、参加したいと回答した人が、半数を占めている一方、参加したいと思わないと回答した人が 30%程度となっている。



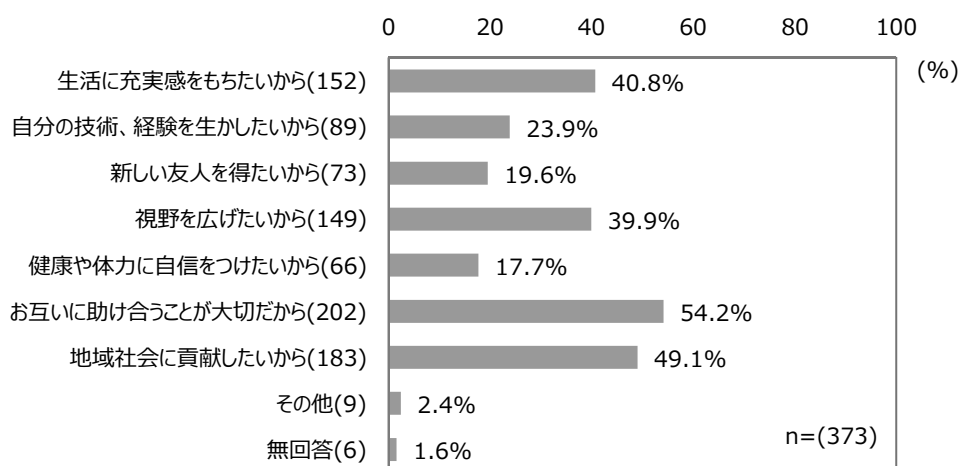
問 21 問 20 で「参加している」または「参加したい」と回答された方にお聞きします。あなたが、現在も含め、今後行いたい地域活動・ボランティア活動は何ですか。（複数回答）

・「自然・環境保護に関する活動（環境美化・リサイクル活動など）」が 33.2%と最も多く、「町内会や自治会、自治区などの地域活動」の 29.5%、「地域の安全に関する活動（交通安全や防犯など）」の 24.9%が、それに次いで多くなっている。



問 22 問 20 で「参加している」または「参加したい」と回答された方にお聞きします。あなたが、地域活動・ボランティア活動に参加したいと思う理由は何ですか。（複数回答）

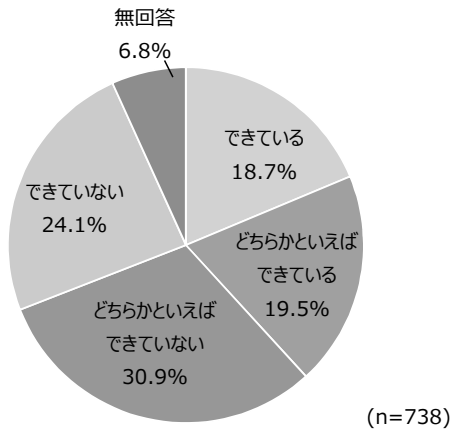
・「お互いに助け合うことが大切だから」が 54.2%と最も多く、次いで、「地域社会に貢献したいから」の 49.1%、「生活に充実感をもちたいから」の 40.8%が多い。



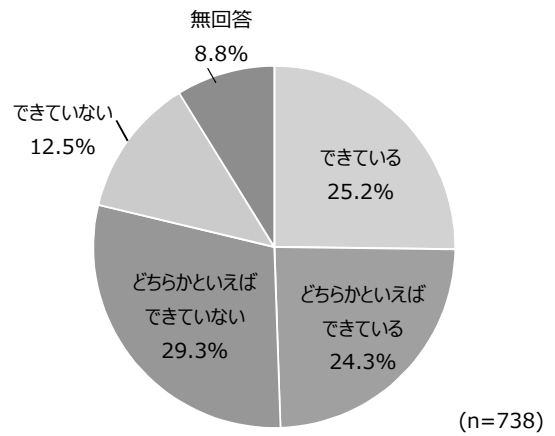
問 23 現在、多様な人とのつながりができていますか。

・「世代間」での人とのつながりができていると回答した人は半数程度となっており、また、「地域活動」を通じて、人とのつながりができていると回答した人は 70%以上を占めている。

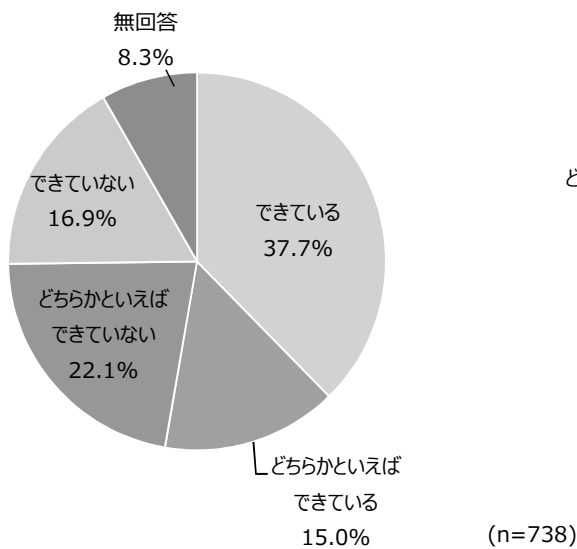
【同世代】



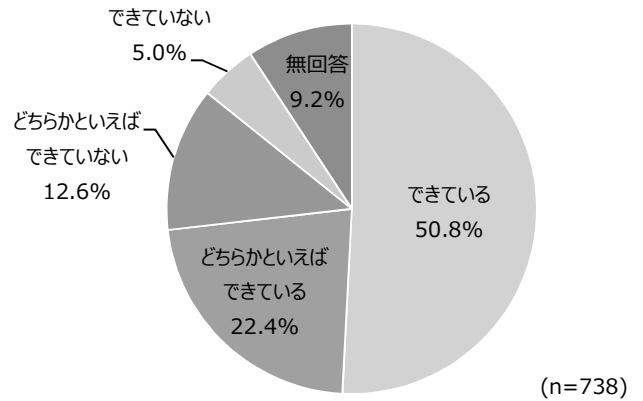
【世代間】



【趣味】



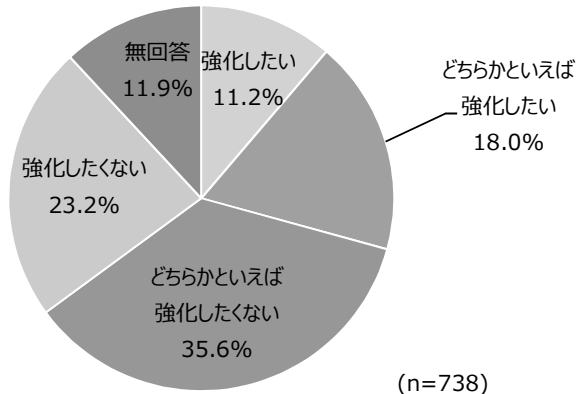
【地域活動】



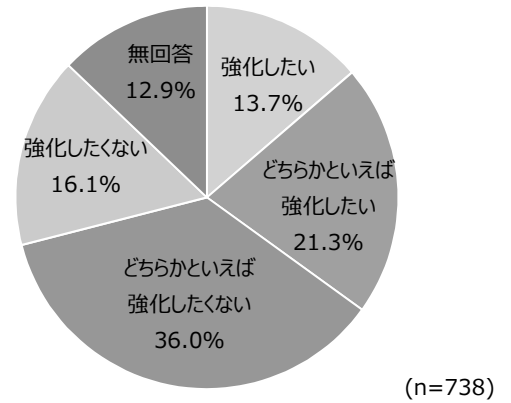
問 24 今後、多様な人とのつながりを強化したいですか。

・「同世代」、「世代間」とともに、人とのつながりを強化したいと答えた人は、30%程度に留まっている。
 また、「趣味」や「地域活動」を通じた人とのつながりの強化についても、強化したいと回答した人は半数以下となっている。

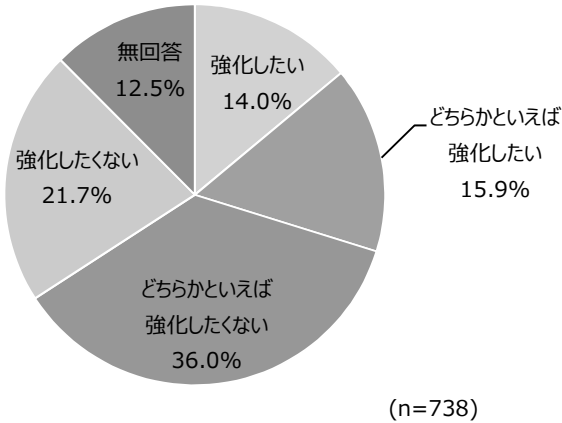
【同世代】



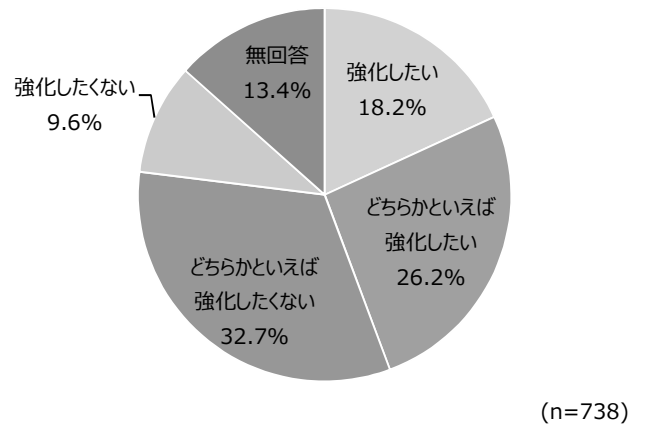
【世代間】



【趣味】



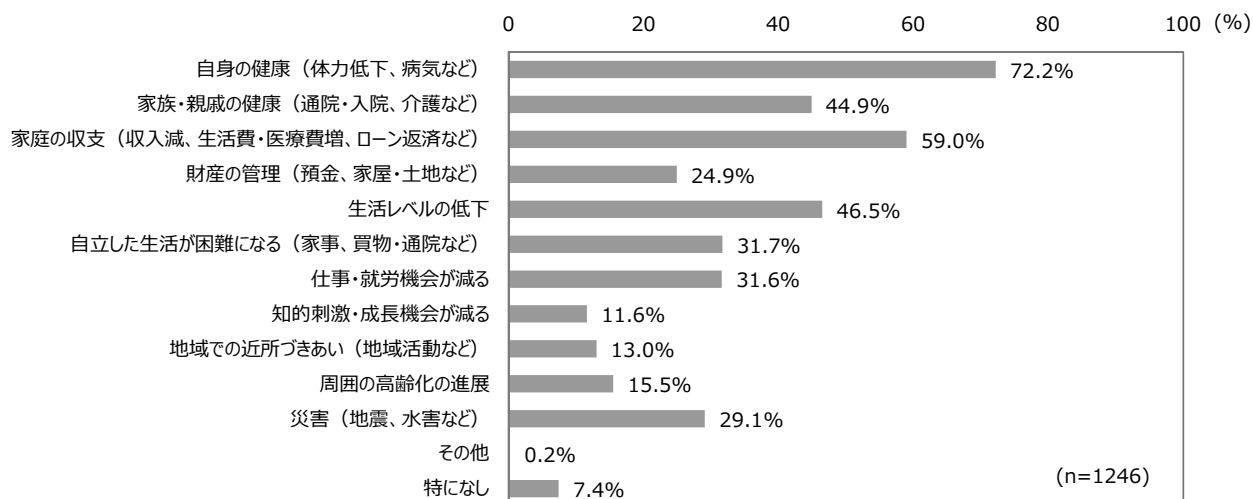
【地域活動】



(2) 首都圏在住者アンケート調査結果

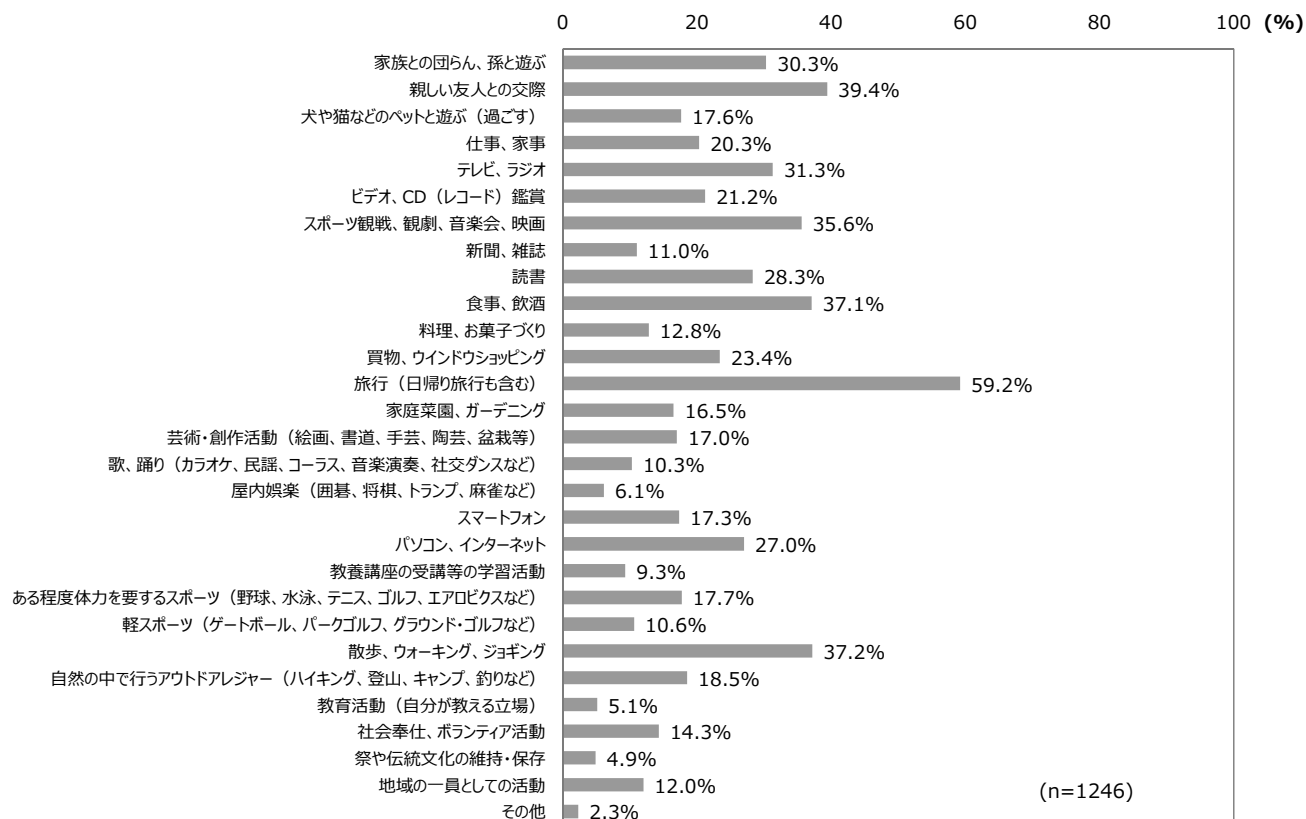
問1 定年退職後あるいは65歳以上を「シニア世代」とします。あなたが「シニア世代」になるに当たって不安に思うことは何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

・「自身の健康（体力低下、病気など）」が72.2%と最も多く、生活費や家族の介護、生活レベルの低下などが高い割合を占めている。



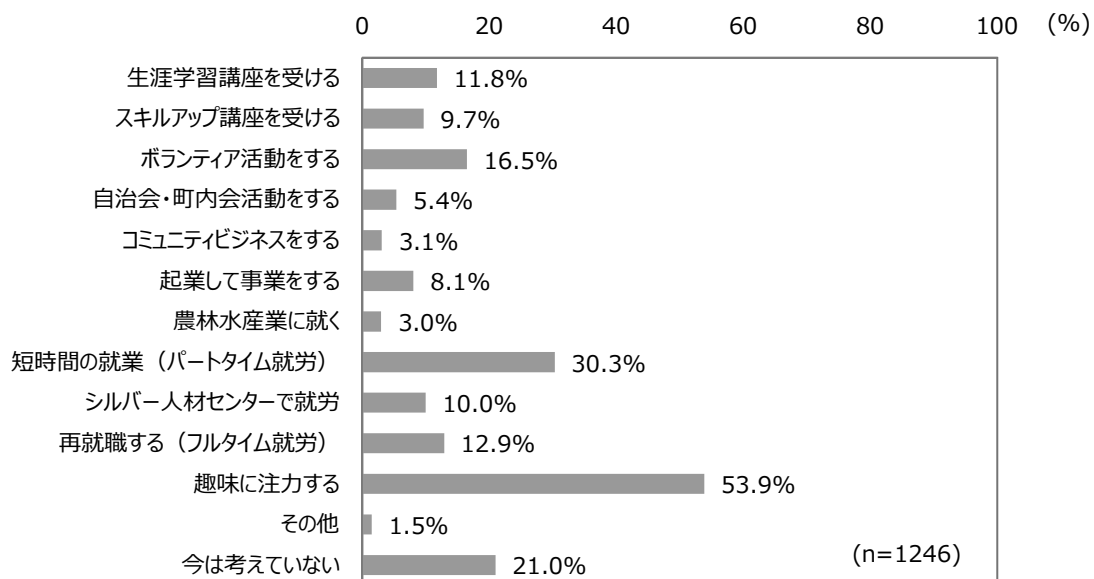
問2 あなたの「シニア世代」における楽しみや生きがいは何だと思えますか。あてはまるものをすべてお選びください。

・「旅行（日帰り旅行も含む）」が59.2%と最も多く、次いで、「親しい友人との交際」が39.4%、「散歩、ウォーキング、ジョギング」が37.2%となっている。



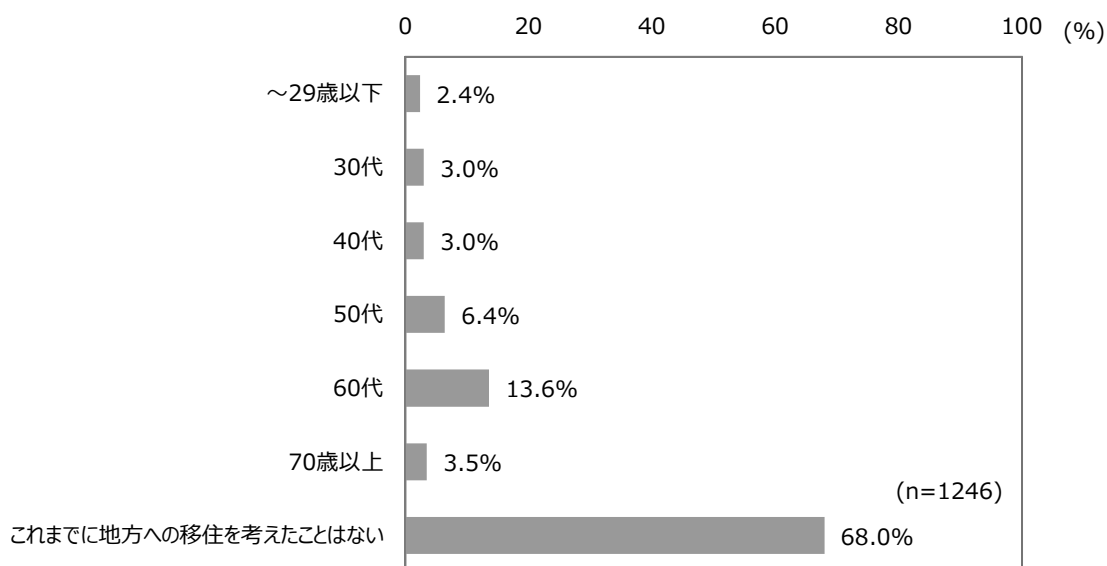
問3 あなたが「シニア世代」でやりたいことは何ですか。やりたいことを3つまでお選びください。

・「趣味に注力する」が53.9%と最も多く、就労やボランティア活動に関する意見も比較的多くあげられている。



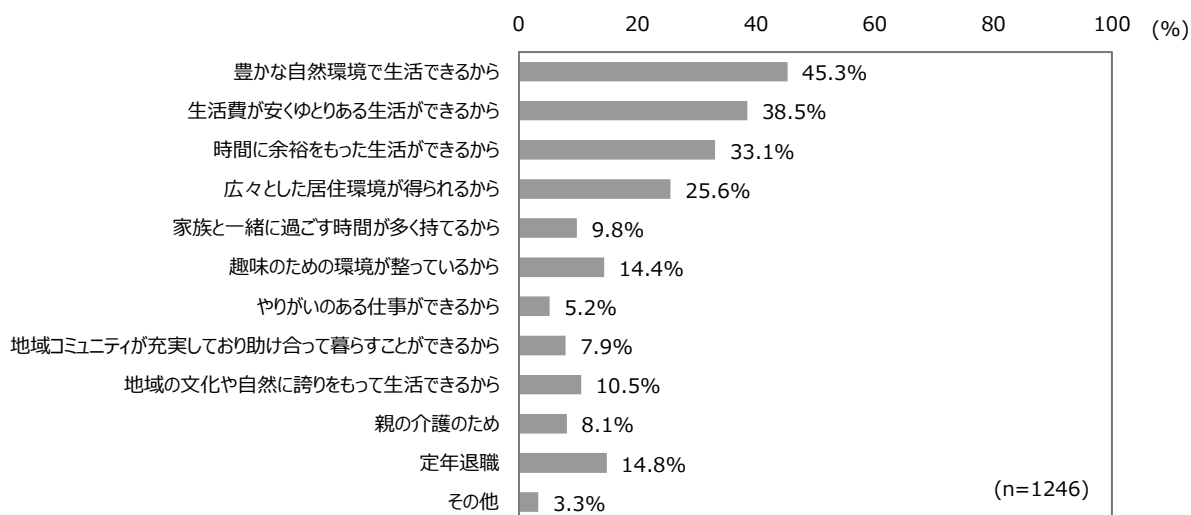
問4 あなたは、これまで地方への移住について考えたことがありますか。考えたことがある方は、地方へ移住してみたかった又は今後移住してみたい時期（年齢）をお答えください。

・若年層に比べ、50歳代・60歳代のシニア層が、移住に対する関心が高くなっている。



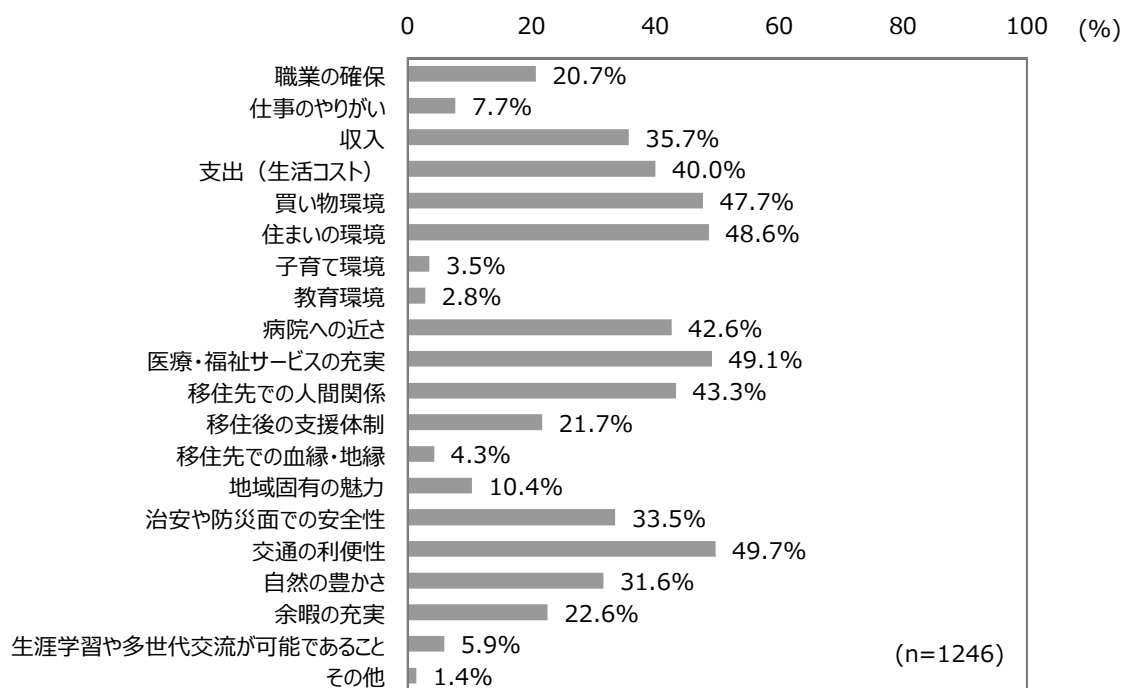
問5 もしあなたが地方への移住を検討するとしたら、地方への移住を検討するきっかけは何だと思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。

・「豊かな自然環境で生活できるから」が45.3%と最も多く、次いで、「生活費が安くゆとりある生活ができるから」が38.5%、「時間に余裕をもった生活ができるから」が33.1%となっている。



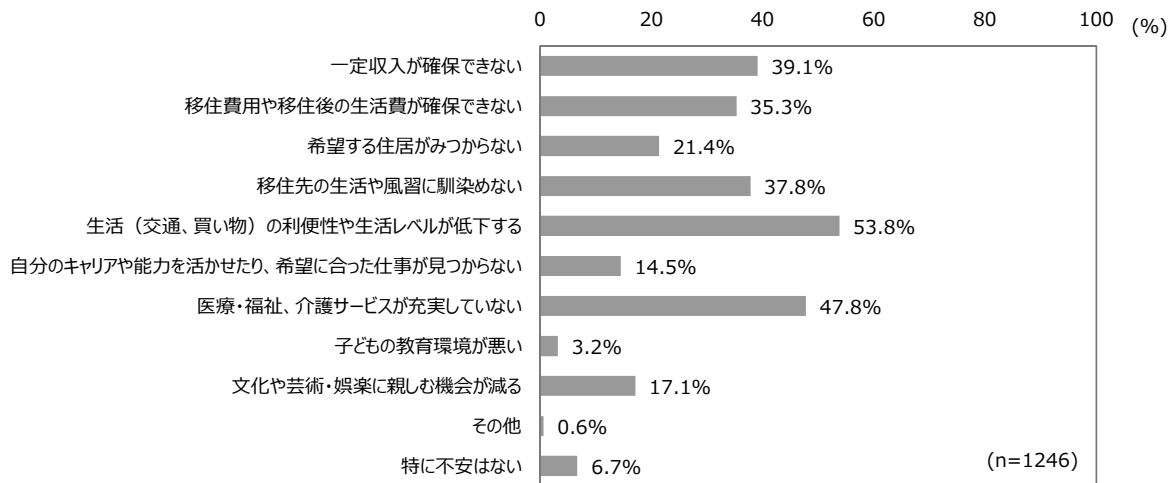
問6 もしあなたが地方への移住を検討するとしたら、特に重要だと考える移住の条件は何だと思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。

・「交通の利便性」が49.7%と最も多く、次いで、「医療・福祉サービスの充実」が49.1%、「住まいの環境」が48.6%となっている。



問7 もしあなたが地方への移住を検討するとしたら、地方への移住について、不安に思うことは何だと思えますか。あてはまるものをすべてお選びください。

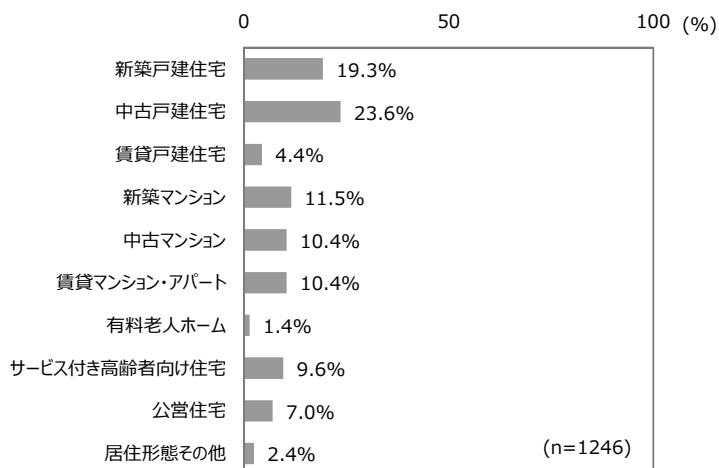
・「生活（交通、買い物）の利便性や生活レベルが低下する」が53.8%と最も多く、「医療・福祉サービスが充実していない」が47.8%、「一定収入が確保できない」が39.1%と、それに次いで多くなっている。



問8 もしあなたが地方への移住を検討するとしたら、あなたが住んでみたい居住形態やエリアをそれぞれお選びください。

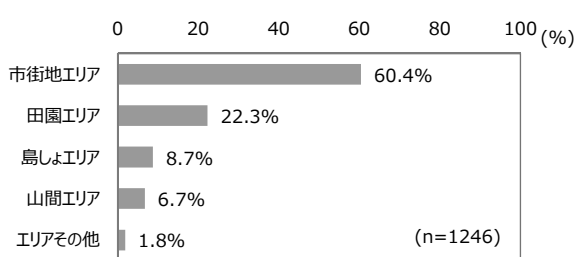
【居住形態】

・「マンション」より「戸建て住宅」を望む意見が多く、「賃貸マンション」や「サービス付き高齢者向け住宅」といった意見も比較的多くなっている。



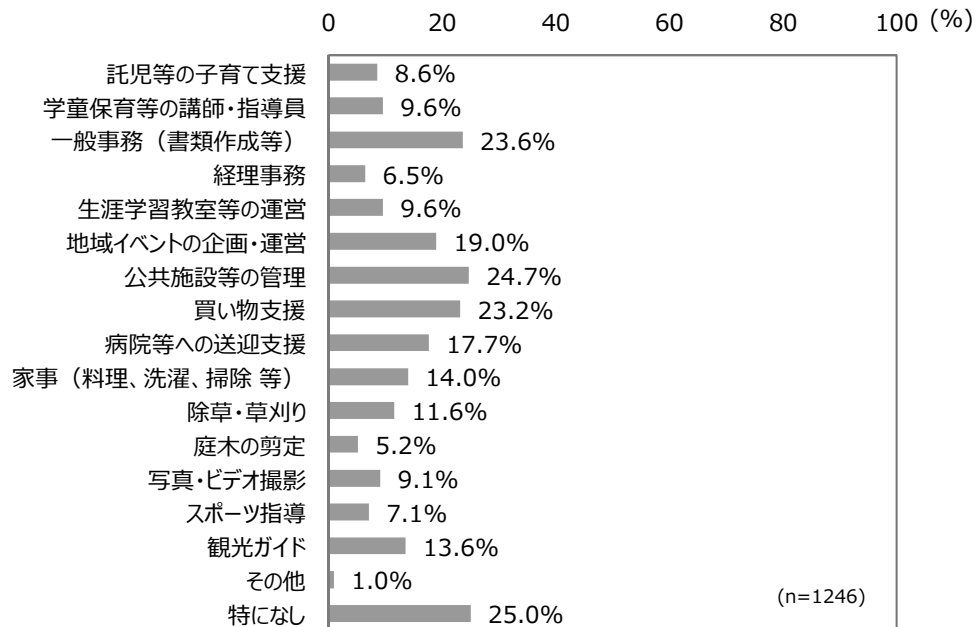
【エリア】

・「市街地エリア」が60.4%と最も多く、「山間エリア」が6.7%と少なくなっている。



問 9 地方では、近年、地域に役立つ仕事や活動が求められています。もしあなたが地方へ移住したら、あなたが参加したいものはどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。

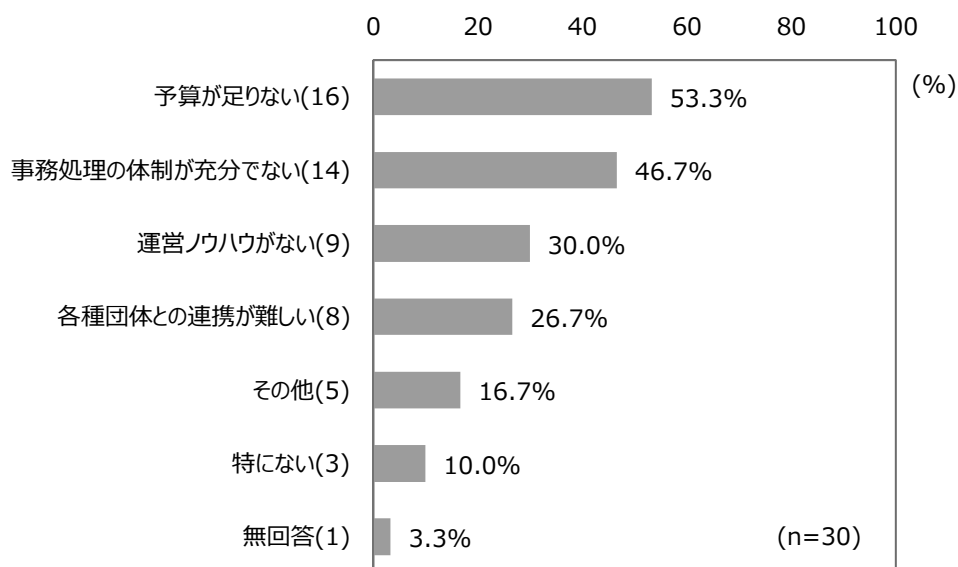
・「公共施設等の管理」が 24.7%となっているほか、「買い物支援」が 23.3%、「病院等への送迎支援」が 17.7%と、高齢者への生活支援に対する回答が多くあげられている。



(3) 地域コミュニティ協議会アンケート調査結果

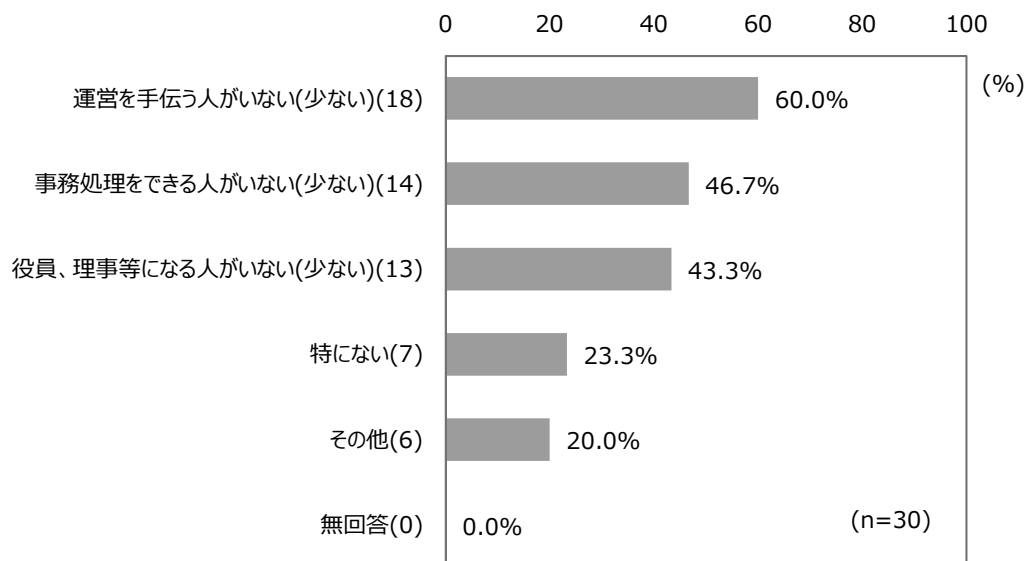
問1 貴協議会が活動を行っていく上で、運営面でどのような課題がありますか。

・「予算が足りない」が53.3%と最も多く、次いで、「事務処理の体制が充分でない」が46.7%、「運営ノウハウがない」が30.0%となっている。



問2 貴協議会が活動を行っていく上で、人材面でどのような課題がありますか。

・「運営を手伝う人がいない(少ない)」が60.0%と最も多く、「事務処理をできる人がいない(少ない)」が46.7%、「役員、理事等になる人がいない(少ない)」が43.3%と次いで多くなっている。

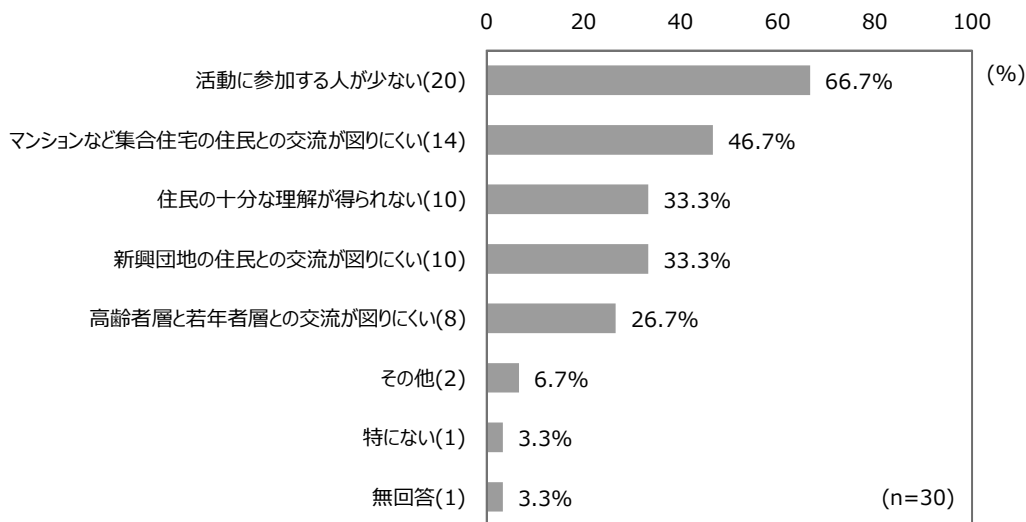


問 3 貴協議会では、今後の地域コミュニティをけん引していく人材を確保していくために、どのような取組をしていますか。（自由記述）

主な回答項目
個別に相談・依頼(6件)、特にしてない(6件)、各種団体等との交流・連携(5件)、独自の研修・制度等(5件)、イベント等を通じた巻き込み(3件)

問 4 貴協議会の活動において、地域住民の参加面でどのような課題がありますか。

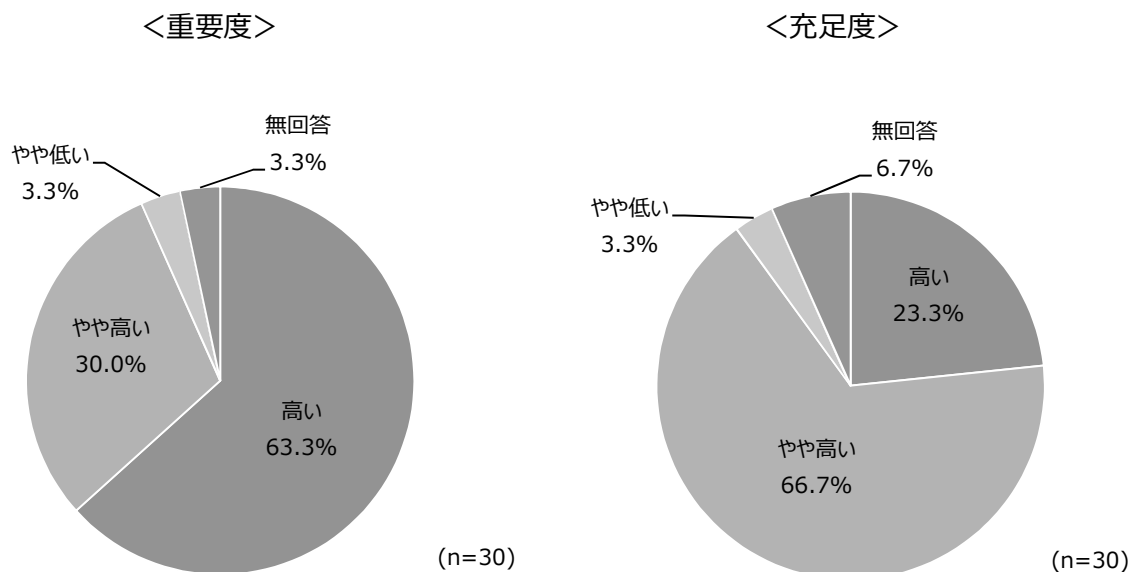
・「活動に参加する人が少ない」が66.7%と最も多く、「マンションなど集合住宅の住民との交流が図りにくい」の46.7%、「住民の十分な理解が得られない」及び「新興団地の住民との交流が図りにくい」の33.3%が、それに次いで多くなっている。



問 5-1 次の分野の活動について、貴協議会における重要度、また、活動の充足度をお答えください。

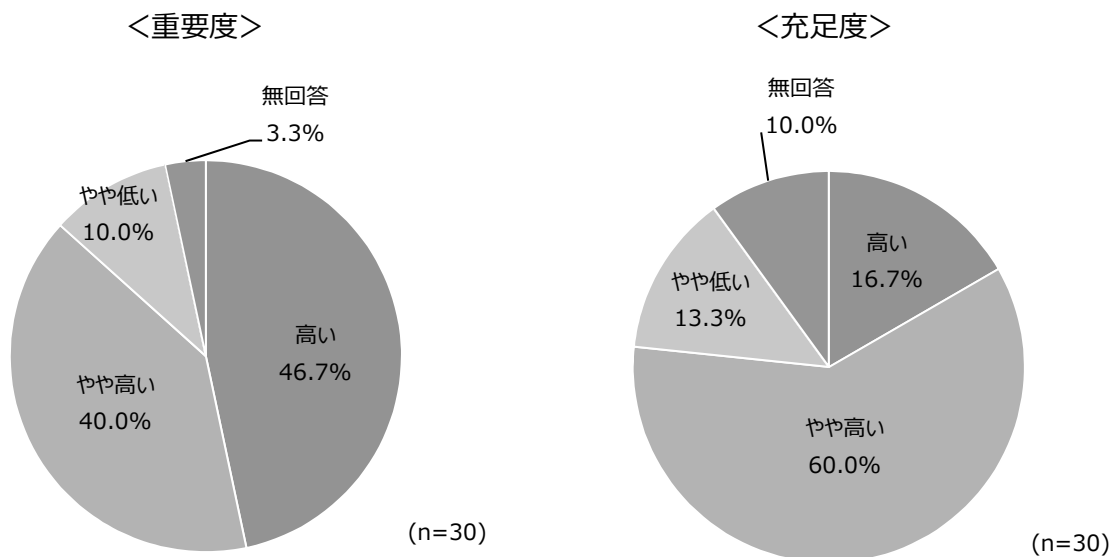
【青少年健全育成、文化祭、生涯学習、スポーツ振興】

・重要度、充足度ともに90%以上が高いと回答している。



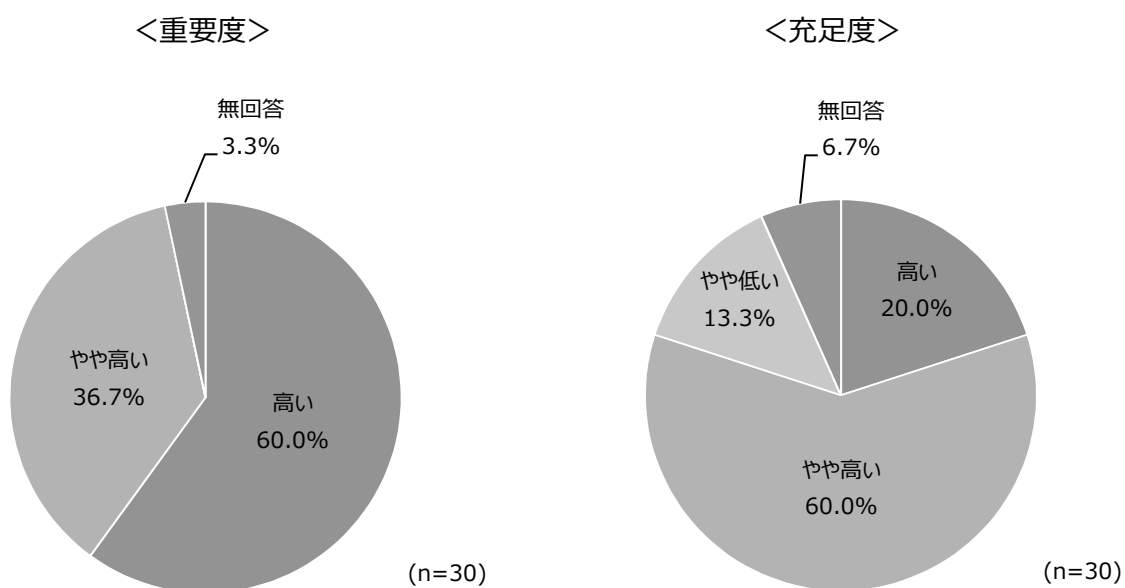
問 5-2【環境保全の推進、リサイクル推進】

- ・重要度については、「高い」が 46.7%、「やや高い」が 40.0%で、多くの協議会が環境への取組の重要性を感じている。
- ・充足度については、「高い」が 16.7%、「やや高い」が 60.0%となっている。



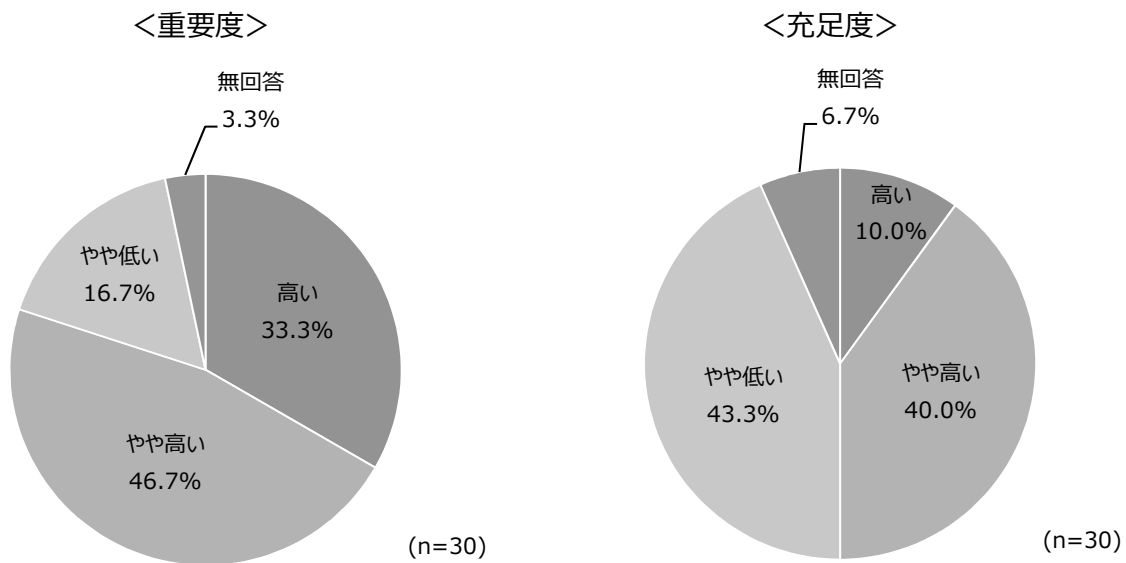
問 5-3【子育て支援、健康づくりの推進、高齢者の支えあい】

- ・重要度については、「高い」が 60.0%、「やや高い」が 36.7%となっており、地域における子育て世代や高齢者への支援の重要性の高さが伺える。
- ・充足度については、「高い」が 20.0%、「やや高い」が 60.0%となっており、80%が活動が行えていると回答している。



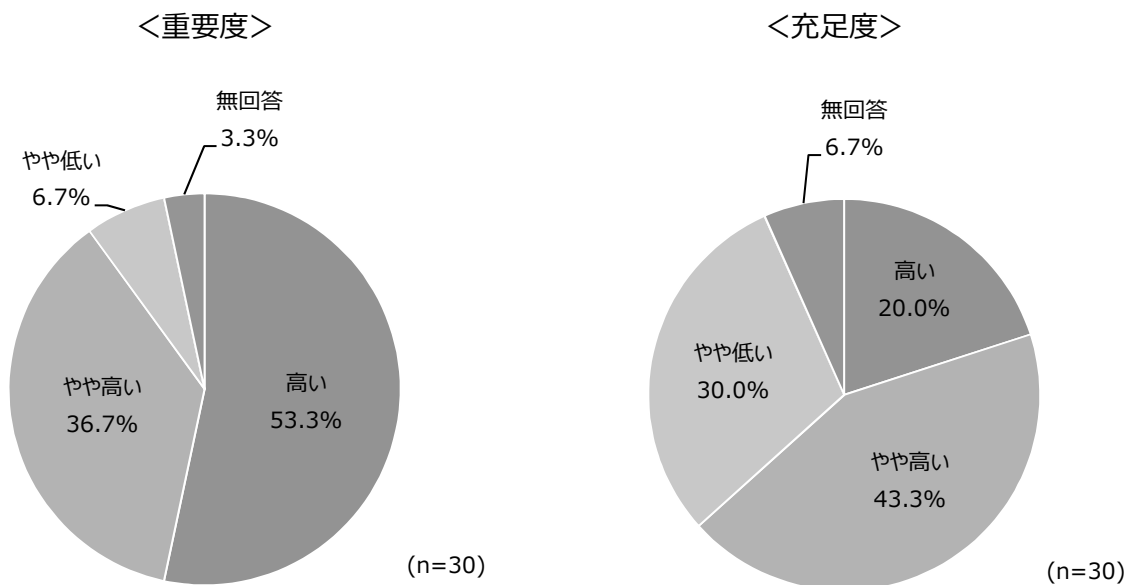
問 5-4【地域の魅力創出と発信、地域間交流など魅力あふれる地域づくり】

- ・重要度については、「高い」、「やや高い」が80%を占めている。
- ・充足度については、「高い」、「やや高い」が50 %となる一方、「やや低い」も43.3%を占めている。



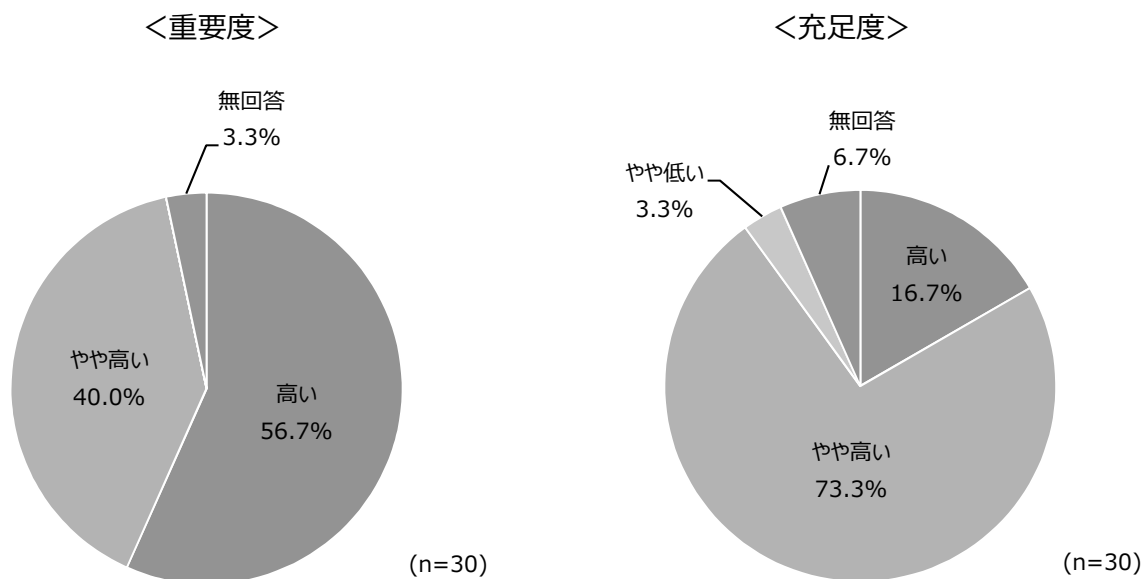
問 5-5【自治会活動の活性化、ふれあい交流】

- ・重要度については、「高い」が53.3%、「やや高い」が36.7%となっており、90%が自治会活動の重要性を感じている。
- ・充足度については、「高い」、「やや高い」は、全体の63%となっている。



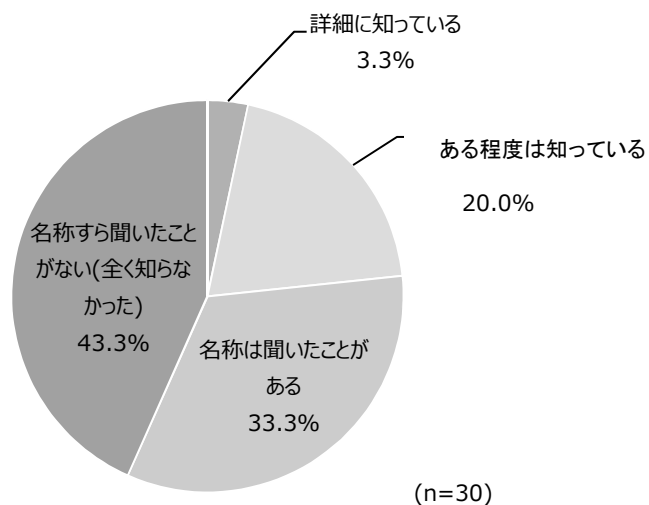
問 5-6【交通安全、防災活動】

・重要度、充足度ともに、90 %以上が高いと回答している。



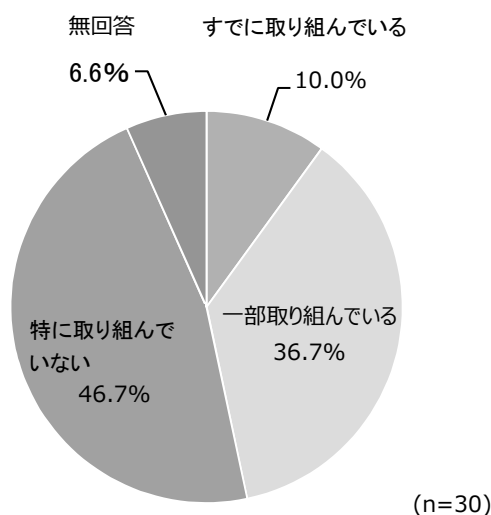
問 6 国では、「生涯活躍のまち」構想を展開しています。これを受けて、現在、本市においても、「生涯活躍のまち構想(仮称)」の策定に向けて検討しています。国の「生涯活躍のまち構想」について、ご存知ですか。

・「名称すら聞いたことがない(全く知らなかった)」が 43.3%と最も多く、「詳細に知っている」、「ある程度は知っている」は 23.3%と留まっている。



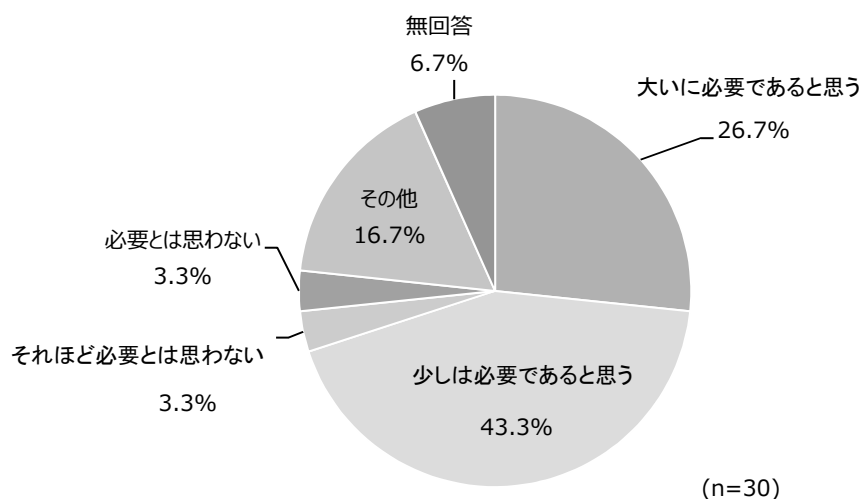
問 7 国の「生涯活躍のまち構想」に記載されている「健康でアクティブな生活の実現」や「地域の多世代の住民との協働」といった取組をすでに行われていますか。

・「すでに取り組んでいる」、「一部取り組んでいる」が46.7%となっている一方、「特に取り組んでいない」も同数の結果となっている。



問 8 国の「生涯活躍のまち構想」に記載されている「生涯活躍のまち」づくりを進めていく上で、貴協議会にも何らかの取組は必要と考えますか。

・「大いに必要であると思う」、「少しは必要であると思う」が、全体の70%となっている。

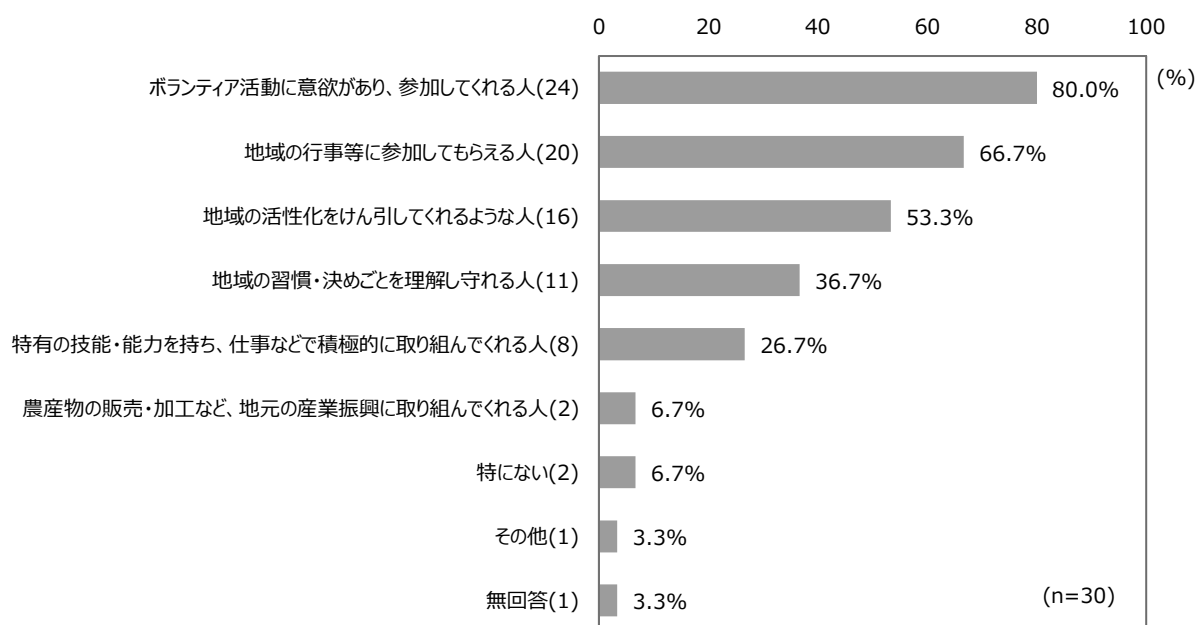


問 9 問 8 で、「大いに必要であると思う」あるいは「少しは必要であると思う」とお答えになった方にお聞きします。この「生涯活躍のまち」に貴協議会ができると考えられる取組、あるいは、ぜひ実行したいと思う取組には、どのようなものがありますか。（自由記述）

主な回答項目
活動機会の提供(10件)、健康づくり(3件)、多世代交流(3件)、生涯学習(2件)、文化祭(2件)、検討中(1件)、その他(5件)

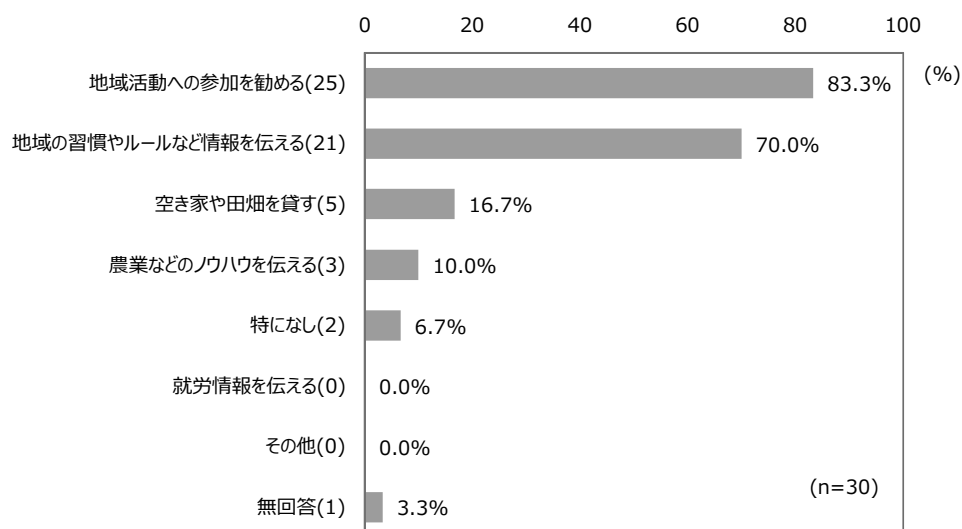
問 10 生涯活躍のまちを進めていく中で、首都圏等から移住者を受け入れる場合、貴協議会として、どのような人に地域活動に参加してほしいですか？

・「ボランティア活動に意欲があり、参加してくれる人」が 80.0%と最も多く、「地域の行事等に参加してもらえる人」の 66.7%、「地域の活性化をけん引してくれるような人」の 53.3%が、それに次いで多くなっている。



問 11 生涯活躍のまちを進めていく中で、首都圏等から移住者を受け入れる場合、貴協議会として、どのような支援ができますか。

・「地域活動への参加を勧める」が 83.3%と最も多く、「地域の習慣やルールなど情報を伝える」の 70.0%が、それに次いで多くなっている。



高松版生涯活躍のまち構想策定経過

年月日	会議・内容等
平成 29 年 11 月 9 日	29 年度第 1 回高松版生涯活躍のまち構想検討プロジェクトチーム会議 ・高松版生涯活躍のまち構想（仮称）の方向性について
平成 30 年 1 月 10 日	29 年度第 2 回高松版生涯活躍のまち構想検討プロジェクトチーム会議 ・高松版生涯活躍のまち基本構想・基本計画(仮称)骨子の概要について
平成 30 年 3 月 30 日	29 年度第 3 回高松版生涯活躍のまち構想検討プロジェクトチーム会議 ・これまでの検討内容及び今後の検討の進め方について
平成 30 年 6 月 1 日	30 年度第 1 回高松版生涯活躍のまち構想検討プロジェクトチーム会議 ・高松版生涯活躍のまち構想・基本計画（仮称）骨子案について
平成 30 年 9 月 3～28 日	高松市民・首都圏在住者・地域コミュニティ協議会を対象とした意識調査の実施
平成 30 年 11 月 17 日	高松版生涯活躍のまちに関するアンケート調査に伴う市民との意見交換会
平成 30 年 12 月 4 日	30 年度第 2 回高松版生涯活躍のまち構想検討プロジェクトチーム会議 ・高松版生涯活躍のまち構想（仮称）素案について
平成 30 年 12 月 12 日	第 1 回高松版生涯活躍のまち構想（仮称）策定に係るアドバイザー会議 ・高松版生涯活躍のまち構想（仮称）素案について
平成 30 年 12 月 17 日	市議会 総務調査会 ・高松版生涯活躍のまち構想（仮称）素案について
平成 30 年 12 月 21 日 ～平成 31 年 1 月 21 日	高松版生涯活躍のまち構想(仮称)素案についてのパブリックコメント実施
平成 31 年 1 月 17・19 日	高松版生涯活躍のまち構想策定に係るフィールドワーク ・仏生山地区及び男木地区
平成 31 年 1 月 24 日	30 年度第 3 回高松版生涯活躍のまち構想検討プロジェクトチーム会議 ・素案からの変更点及び目指す姿のフレーズについて
平成 31 年 2 月 7 日	第 2 回高松版生涯活躍のまち構想（仮称）策定に係るアドバイザー会議 ・高松版生涯活躍のまち構想（仮称）原案について
平成 31 年 2 月 8 日	30 年度第 4 回高松版生涯活躍のまち構想検討プロジェクトチーム会議 ・高松版生涯活躍のまち構想（仮称）原案について

高松版生涯活躍のまち構想検討プロジェクトチーム

区分	職名
リーダー	政策課 移住・定住促進室長
サブリーダー	長寿福祉課長
メンバー	政策課長
	コミュニティ推進課長
	住宅・まちづくり企画課長
	健康福祉総務課長
	障がい福祉課長
	長寿福祉課 地域包括ケア推進室長
	子育て支援課長
	保健センター長
	産業振興課長
	生涯学習課長

高松版生涯活躍のまち構想策定に係るアドバイザー

氏名	団体名・役職等
岡本 英彦	社会福祉法人 高松市社会福祉協議会 常務理事
清國 祐二	香川大学 地域連携・生涯学習センター長
高橋 育男	香川労働局 職業安定部 職業対策課長
野町 麦葉	社会福祉法人 未知の会 春日こども園長
松田 智生	株式会社三菱総合研究所 プラチナ社会センター 主席研究員 政府日本版C R C構想有識者会議委員
村上 和広	高松市コミュニティ協議会連合会 事務局長

(五十音順)

高松版生涯活躍のまちに関するアンケート調査に伴う市民との意見交換会〔参加者 14 人〕

【テーマ】皆さんにとっての生きがいや社会活動、そこから考える「生涯活躍のまち」とは
(主な意見)

□ 地域コミュニティについて

地域で活躍するためには地域コミュニティが重要となることから、より多くの人があるところに参画することができる環境を整えることが必要である。



□ 仕事の情報収集と発信について

生きがいや社会活動を考えるに当たって、仕事が重要となってくる。体力的なことを考えると短時間の就労形態が望ましいので、そういった情報をより容易に入手できるようにしてほしいし、できることなら短時間勤務を望む人と企業とのマッチングが図れるような取組があってほしい。

□ 人とのつながりと社会参加

仕事やボランティアをすることで、人とのつながりができ、生きがいを感じることができる。また、感謝されることで仕事や活動の価値を評価され、社会に貢献していると感じることができる。



高松版生涯活躍のまち構想策定に係るフィールドワーク〔参加者 22 人〕

【テーマ】いくつになっても健康で活躍できる地域づくりを目指して
(主な意見)

○ 住み慣れた地域で生涯活躍するためには、地域コミュニティの存在が重要であり、また、幅広い世代からできるだけ多くの住民が地域活動に参加することが必要である。



○ 住民のライフスタイルが多様化している中、それぞれができる範囲で、担い手としてコミュニティ活動へ参画することを考えていかなければならない。

○ 地域では様々な活動が行われており、その担い手としてアクティブシニアの方々に関わることができれば、その人たちの生きがいにもつながるため、今後、そのつなぎ役となるような人や地域で活動を推し進めるような人材が求められる。

○ 地域でも高齢化や人口減少の流れを感じる。一度地域から出たシニア層の中にも生まれ育った故郷に戻ってきたいと思っている人は多いと思う。そのような方々がまた暮らしたくなるような地域づくりが必要であり、今住んでいる人たちがそのようなことに取り組みれば、やりがいや生きがいにもつながるのではないかと。

○ いくつになっても健康で活躍できることは重要なことであり、そのためにも働きたいと思う人が、自らの体力に合わせて、地域活動や余暇にも時間を割きながら働くことができるような社会であることが求められる。



高松版生涯活躍のまち構想

～ 瀬戸の都・高松 アクティブライフ プラン ～

編集・発行 高松市 市民政策局 政策課 移住・定住促進室
〒760-8571 高松市番町一丁目8番15号

電話 087-839-2143 FAX 087-839-2125

ホームページアドレス <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp>

